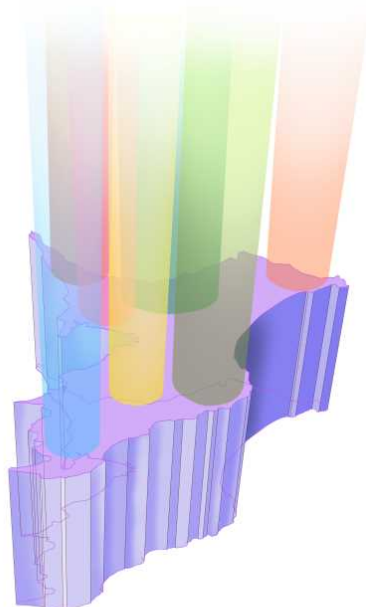


県立学校改革推進プランに係る評価

(令和元年度再編実施分)



令和4年12月

教育政策課

— 目 次 —

I	評価の概要	
1	評価の目的	1
2	評価の進め方	1
3	評価対象	2
4	評価区分とスケジュール	3
II	評価	
1	普通科及び普通系専門学科・コース	
(1)	保育基礎コースの設置	5
2	職業系専門学科・コース	
(1)	福祉コースの設置	8
3	総合学科	
(1)	総合学科の設置	11
4	社会のニーズに対応した教育	
(1)	中高一貫教育校の設置	15
(2)	防災の学びの導入	21
5	全日制高校の配置	
(1)	統合	23
6	令和元年度再編実施分プラン評価のまとめ	26
III	資料	
1	普通科及び普通系専門学科・コース	
(1)	保育基礎コースの設置	30
2	職業系専門学科・コース	
(1)	福祉コースの設置	33
3	総合学科	
(1)	総合学科の設置	36
4	社会のニーズに対応した教育	
(1)	中高一貫教育校の設置	40
(2)	防災の学びの導入	44
5	全日制高校の配置	
(1)	統合	47
6	外部関係団体の意見	50
7	基礎データ	63
IV	その他	
	再編校の追跡調査について	73

県立学校改革推進プランに係る評価（令和元年度再編実施分）

I 評価の概要

1 評価の目的

県立学校改革推進プラン（以下「プラン」という）の実施状況及び成果や課題を把握し、より一層魅力ある県立学校づくりを推進するとともに、今後の高校改革に係る計画の策定に資することを目的として評価を実施します。

2 評価の進め方

（1）調査の時期

再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行い、外部からの意見聴取を実施しながら評価を取りまとめます。

定時制・通信制高校においては、4年が経過するまでの卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行います。

（2）アンケート調査、聴き取り調査等の実施

ア 再編実施校の生徒及び保護者を対象に、アンケート調査を実施します。コース設置の場合にはコース選択者以外にも抽出してアンケート調査を実施します。

イ 再編実施校を訪問して、聴き取り調査を実施します。

ウ 再編実施校の近隣中学校にアンケート調査を実施します。

（3）評価の作成

ア 調査結果は「普通科及び普通系専門学科・コース」「職業系専門学科・コース」「総合学科」「社会のニーズに対応した教育」「県立学校の適正規模・適正配置」（「全日制高校の配置」及び「定時制・通信制高校の配置」）の再編種別に大別・整理して、取りまとめを行います。

イ 取りまとめた調査結果について、教育関係団体、産業関係団体、その他外部関係団体から意見聴取を実施します。

ウ 意見聴取等を踏まえ、再編種別ごとに「成果と課題」及び「今後の取組の方向性」について取りまとめます。

（4）評価の公表

評価結果については、千葉県教育委員会のホームページで公表します。

3 評価対象

(1) 普通科及び普通系専門学科^{※1}・コース^{※2}

ア 保育基礎コースの設置（市川南高校）

(2) 職業系専門学科・コース

ア 福祉コースの設置（我孫子東高校）

(3) 総合学科^{※3}

ア 総合学科の設置（幕張総合高校）

(4) 社会のニーズに対応した教育

ア 中高一貫教育校^{※4}の設置（東葛飾中学校・高校、千葉中学校・高校）※

イ 防災の学びの導入（市原八幡高校）

(5) 全日制高校の配置

ア 統合（市原高校・鶴舞桜が丘高校）

◇ 中高一貫教育校（併設型）の評価について

千葉中学校・高校（平成 20 年度設置）

平成 21 年 12 月「県立高等学校再編計画」に係る前期分評価で実施済み

併設型中高一貫教育校については、既に前期分評価の中で評価を行いました
が、今後も評価作業を継続し、成果や公立の中高一貫教育校としての在り方
などについて検証してまいります。

< 県立学校改革推進プラン（2）中高一貫教育校より抜粋 >

東葛飾中学校・高校（平成 28 年度設置）

令和元年 9 月「県立学校改革推進プラン」に係る評価で実施済み

設置当初の生徒が、令和元年度で高校 1 年生となりました。高校卒業までの
6 年間をとおした評価が必要であることから追調査を行っていきます

< 県立学校改革推進プランに係る評価（平成 28 年度再編実施分）より抜粋 >

※1 専門学科：専門教育を主とする学科であり、25 単位以上の専門科目を履修する必要がある。

※2 コース：生徒の特性、進路等に応じ、学習計画に計画性、継続性を持たせるため、学校が
独自に各教科・科目をあらかじめ配列したもの。

※3 総合学科：平成 6 年度から制度化された普通科及び専門学科と並ぶ第 3 の学科で、普通科目
と専門科目をともに幅広く開設し、生徒が自らの興味・関心や進路希望等に応じて幅広い分野
（系列）の中から科目を選択して学習できるなど、柔軟な教育課程が編成できる単位制の学科

※4 中高一貫教育校：実施形態から、「中等教育学校」「併設型」「連携型」の三つがあ
る。「中等教育学校」は、一つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うもので、「併
設型」は「中等教育学校」より緩やかな形態で、高等学校入学者選抜を行わず、同一の
設置者による中学校と高等学校を接続する。千葉中学校（平成 20 年度設置）及び東葛
飾中学校（平成 28 年度設置）はこれに該当する。「連携型」は、設置者が異なる場合
であっても実施できるように「併設型」よりも更に緩やかな形態で実施するもの。関宿高
校（平成 16 年度設置）はこれに該当する。

4 評価区分とスケジュール

再編年度	評価年度	普通科及び普通系専門学科 ・コース	職業系専門学科・コース	総合学科	社会のニーズに対応した教育	全日制高校の配置	定時制・通信制高校の配置
H24	H26				泉 ・地域連携アクティブスクール 天羽 ・地域連携アクティブスクール		
H25	H27	柏井 ・国際コミュニケーションコース	松戸向陽 ・福祉教育拠点校 ・福祉コース				
H26	H28	千葉女子 ・教員基礎コース 東葛飾 ・医歯薬コース 佐倉 ・理数科 長狭 ・医療・福祉コース ＜医療コース＞ 安房 ・教員基礎コース	千葉工業 ・工業教育拠点校 ・コンソーシアム 長狭 ・医療・福祉コース ＜福祉コース＞		銚子 ・防災の学び 鶴舞桜が丘 ・緑地管理コース		
H27	H29	成田国際 ・グローバルスクール	茂原樟陽 ・農業教育拠点校 小見川 ・福祉コース		船橋古和釜 ・地域連携アクティブスクール 流山北 ・地域連携アクティブスクール 銚子商業 ・海洋環境コース 館山総合 ・観光の学び ・栽培環境コース	大原 岬 勝浦若潮 ・統合	
H28	H30	松尾 ・グローバル化に関する学び	千葉工業 ・理数工学科	小金 ・総合学科	東葛飾 ・中高一貫教育校 成東 ・単位制		
H29	R1 通信 R1 R2	匝瑳 ・国際に関するコース 木更津 ・理数科	佐倉西 ・福祉コース				館山総合 ・通信制協力校

再編 年度	評価 年度	普通科及び 普通系専門学科 ・コース	職業系専門 学科・コース	総合学科	社会のニーズに 対応した教育	全日制高校 の配置	定時制・ 通信制高校 の配置
H30	R2	我孫子 ・教員基礎コース 君津 ・教員基礎コース	千葉商業 ・学科再構成 流山 ・学科再構成 成田西陵 ・学科再構成 下総 ・学科再構成 多古 ・学科再構成 旭農業 ・学科再構成 大網 ・学科再構成 茂原樟陽 ・学科再構成 君津商業 ・学科再構成 鶴舞桜が丘 ・学科再構成		安房 ・単位制		
R1	R3	市川南 ・保育基礎コース	我孫子東 ・福祉コース	幕張総合 ・総合学科	市原八幡 ・防災の学び	市原 鶴舞桜が丘 ・統合	
R2	R4 定時 R5	成田北 ・医療コース 四街道北 ・保育基礎コース	犢橋 ・福祉コース 天羽 ・工業基礎コース 姉崎 ・ものづくりコース				千葉工業 ・学科再構成 市川工業 ・学科再構成 木更津東 ・学科再構成
R3	R5					君津 上総 ・統合	
R4	定時 R6 R7						船橋 行徳 ・統合 佐倉南 ・三部制定時

※網掛け箇所が今年度評価対象校

II 評価

1 普通科及び普通系専門学科・コース

(1) 保育基礎コースの設置

普通科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 医師、教員、介護従事者等不足する人材の育成などを視野に入れ、社会のニーズに対応したコースを設置します。

ア 第3次実施プログラムにおける保育基礎コースの設置

(ア) 対象校

- ・市川南高校 普通科

(イ) 再編の内容（プログラムより抜粋）

- ・小学校入学前までの乳幼児に対する保育や幼児教育に興味・関心を持ち、保育士や幼稚園教諭を目指す生徒が、その基礎的な素養を身に付けるとともに、夢や意欲、職業意識等を育むため、市川南高校に保育基礎コースを設置します。

イ 実施状況

- ・2学年からコースに分かれ、座学で保育の基礎知識を学ぶとともに、実習やボランティア活動を通じて、保育系の進路を目指しています。
- ・コース選択者は、1学年に絵本の読み聞かせボランティアや保育ボランティアの活動に取り組んでいます。
- ・コース選択者は、2学年で「子どもの発達と保育」（2単位）、「子ども文化」（2単位）の科目を、3学年で「子ども文化」（2単位）、「課題研究」（2単位）の科目を履修しています。
 - *新教育課程での保育基礎コースの開設科目（令和4年度入学生から）
 - 2学年：「保育研究Ⅰ」（2単位）、「保育基礎」（2単位）、「国語研究」（1単位）
 - 3学年：「保育研究Ⅱ」（2単位）、「保育実践」（2単位）
- ・2、3学年で履修する「子ども文化」では、本の読み聞かせや折り紙、ピアノ、看護技術等の実習を行い、保育技術検定※の取得を目指しています。
- ・3学年で履修する「課題研究」では、幼稚園、保育園実習などでの実習や、地域の子育て中のお母さんを招いた赤ちゃん交流会に参加するなど、実践的な学びを行っています。

※ 保育技術検定：全国高等学校家庭科教育振興会主催の検定。高校生向けの保育分野の知識に関する検定で、1級から4級まである。毎年2回実施しており、保育科のある高等学校で実施されている。3・4級は高校生に必要とされる子育てに関する基本的な内容の問題が出題され、音楽・リズム表現技術、造形表現技術、言語表現技術、家庭看護技術の4つの種目がある。なお、市川南高校では、令和3年度の実績で、2年生20名が4級に、3年生20名が3級に合格した。



<実習での読み聞かせ>



<外部講師による特別授業（おもちゃづくり）>

ウ まとめ

(ア) 成果と課題 (○成果・●課題)

- コース選択者の生徒全員が、市川南高校にコースがあるから選択したと回答しており、高い目的意識を持った生徒が入学しています。
- 授業内容、生活指導、先生方とのコミュニケーション等、生徒の満足度が非常に高くなっています。
- 市のボランティアへの参加や、近隣の幼稚園、保育園などの実習を通して地域との交流を深めることができ、授業等について協力体制を得られました。
- コロナ禍における実習の実施や、専門的な教員の配置、全教員からのコースへの理解が課題です。
- コースを希望する生徒が設備等の関係からコースに全て受け入れられない場合があり、定員の拡充が課題です。

(イ) 今後の取組の方向性

- ・短時間でも実習が実施できるよう関係機関と連携を密にしていくとともに、引率業務等、全職員でコースの学びを割り振ることで、学校全体での取組という共通の認識を図っていきます。
- ・学校内での活動場所の拡充や専門的な教員の安定的な配置に向けて、環境整備の支援をお願いしていきます。

【参考1】保育基礎コース選択者数

年度 学年	令和元年度 (設置年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
第2学年		20	20	18
第3学年			19	20

【参考2】主な連携先とボランティア先

- 連携先：聖徳大、昭和学院短大、東京経営短期大、千葉商科大、麗澤大、東京教育専門学校
(内容) 講師派遣
- ボランティア先：信篤幼稚園(市川市高谷)、わたぐも保育園(市川市原木)
(内容) 絵本の読み聞かせ、保育ボランティアの活動

【参考3】生徒アンケート結果(「保育基礎コース」を選択してよかった理由)

- ・ピアノの練習が出来た。少人数だから、上手く話せた。分からなくても優しく教えてくれた。
- ・検定取得のための練習があったり、子どもについての様々なことについて学ぶことができたから。将来に役立つことがたくさんあったから。
- ・楽しい。子どもや子育てなど、知らないことをたくさん知れる。
- ・学びを深めたり、作品作りや検定などに取り組めたため。
- ・将来につなげられて、短大も選びやすくなった。
- ・進路を決めやすかったから。
- ・子どもと関わりたいとより思いました。
- ・自分が保育士に向いていないことを学べた。
- ・得られる資格があり、楽しく学べた。
- ・保育基礎コースに入るために学校を選んだ。とても満足している。
- ・保育について深く学ぶことができたから。
- ・保育者になった時に使えるような工作の歌を学べたから。
- ・将来につながることを学べたし、たくさん友達が出来た。
- ・高校卒業してから学ぶのと、高校で学ぶのとでは、大きな違いがあると思うし、検定を得ることができたから。

【参考4】令和3年度コース卒業生の進路状況

※ コース選択者19名のうち保育系進路13名

種別	主な進路先
大 学 3名 (うち保育系3名)	帝京平成大、植草学園大、和洋女子大
短 大 8名 (うち保育系8名)	昭和学院短大、千葉明德短大、千葉経済大学短大、貞静短大 等
専門学校 6名 (うち保育系2名)	東京教育、東京福祉保育、上野法律、日本健康医療福祉 等
就 職 2名 (うち保育系0名)	警視庁、歯科助手

R3年度 コース定員(2・3年生)充足率 **97.5%**

保育系進路決定率(3年生) **68.4%**

3年生 選択者19名/定員20名 ⇒ 13名 保育系進路

2年生 選択者20名/定員20名

2 職業系専門 学科・コース

(1) 福祉コースの設置

普通科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 医師、教員、介護従事者等不足する人材の育成などを視野に入れ、社会のニーズに対応したコースを設置します。

ア 第3次実施プログラムにおける福祉コースの設置

(ア) 対象校

- ・我孫子東高校 普通科

(イ) 再編の内容（プログラムより抜粋）

- ・地域や県全体の福祉教育の充実を図るため、地域バランス等を考慮し、我孫子東高校に福祉コースを設置します。

イ 実施状況

- ・1学年、全生徒に「社会福祉基礎」（2単位）を履修させます。千葉県健康福祉部健康福祉指導課の「介護の未来案内人」※₁を実施し、実際に介護職に就いている方から介護の魅力を学ぶとともに、福祉教育マインドを育成しています（コロナ禍のため、令和元年度のみの実施）。
- ・2年時からコースに分かれ、将来福祉分野で活躍できる人材を育成するために、介護職員初任者研修※₂を教育課程に取り入れています。
- ・コース選択者は2学年で「介護福祉基礎」（2単位）、「コミュニケーション技術」（2単位）を履修します。3学年では、「生活支援技術」（2単位）、「介護総合演習」（4単位）を履修します。*新教育課程でも同様



<高齢者体験>



<スタッフミーティング>

※1 「介護の未来案内人」事業：千葉県健康福祉部健康福祉指導課の事業。県内介護事業所に勤務する方を講師とし、介護の仕事を選んだ「きっかけ」や「エピソード」、介護職の「魅力」や「やりがい」、日々の仕事で感じている「楽しさ」などを紹介する。

※2 介護職員初任者研修：平成25年3月末の訪問介護員養成研修2級課程（ホームヘルパー2級）の廃止を受け、同年4月から介護職員初任者研修課程に移行された。在宅・施設で働く上で必要となる基本的な知識・技術を修得し、指示を受けて介護業務を実践できる能力を育成することを目的としている。

受講時間	講義	実技	実習	修了試験
130時間	40時間	90時間	なし	あり

- ・我孫子市社会福祉協議会や事業所の方を講師に招き、実際に現場で働いている方の生の声を聞いたり、実習を行ったりすることで、介護職への理解を深めています（新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、施設見学や施設での実習ができませんでした）。
- ・進路指導では、三者面談で介護職の給与面や仕事内容などについて、丁寧に説明し、生徒と保護者の意思を確認しています。また、就職の場合、複数の施設に見学に行かせ、自分が働いてみたいと思える施設を選ばせるようにしています。
- ・コース選択者20名のうち、17名（85%）が介護関係の進路に進みました。

ウ まとめ

(ア) 成果と課題（○成果・●課題）

- 生徒の意識は「私達がやってあげたい」「困っている人を助けたい」でしたが、学ぶ中で「福祉を必要としている人とコミュニケーションをとる中で、楽しい時間を共有する」という意識に変わり、学び方が変わりました。
- 福祉コースで学びたいと希望する中学生や、近隣の福祉施設からボランティアに来て欲しいという問い合わせも増えており、我孫子東高校の福祉コースが地域にも浸透してきています。
- 外部講師との連絡調整が不十分であったため、計画していた授業内容にズレが生じてしまうことがありました。

(イ) 今後の取組の方向性

- ・生徒が近隣の小・中学校に訪問し、車椅子体験を教えたり、地域の行事に参加し、ハンドマッサージ体験を行ったりするなど、学校で学んだことを生かしながら、福祉コースの広報につながる活動を行います。

【参考1】福祉コース選択者数

学年	年度	令和元年度 (設置年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度
2学年			20名	20名	20名
3学年			—	20名	18名

【参考2】生徒アンケート結果（我孫子東高校「福祉コース」を選択して良かったこと）

- ・私は、理学療法士のUさんに出会ってから人生が変わったと思っています。(省略)
今では、理学療法士を目指し、身体だけでなく心のケアも担う、そんな人になりたいと強く思いました。
- ・介護士だけではなく、他職種にも関わる内容を学べたので、大学に行っても卒業して社会に出てからも忘れずに誰かの役に立てられるようにしたい。

【参考3】福祉コースを選択した卒業生の進路状況（令和4年3月卒業生）

卒業者数	介護職員初任者 研修の終了者数	福祉系就職者数	福祉系進学者数	福祉系進学者数	
				うち大学・短大	うち専門学校
20名	20名	6名	2名	1名	1名

R3年度 コース定員充足率（2・3年生） 100%
 福祉系進路決定率（3年生） 40%
 3年生 選択者20名／定員20名 ⇒ 8名 福祉系進路
 2年生 選択者20名／定員20名

3 総合学科

(1) 総合学科の設置

総合学科の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 多様な学習ニーズに対応できる総合学科のメリットを普通科の改編に活用し、普通科の転換により、総合学科を3～5校程度設置します。
- 新たな総合学科については、進学を重視する系列や幅広い将来設計にも対応できる系列など、多様なタイプの系列の設置について検討します。

ア 第3次実施プログラムにおける総合学科の設置

(ア) 対象校

- ・幕張総合高校 普通科

(イ) 再編の内容

- ・生徒の多様な進学希望に対応するとともに、大学卒業後の就業までを見通した職業意識の高い人材を育成するため、幕張総合高校の普通科を改編し、進学を重視した総合学科を設置します。

イ 実施状況

- ・2年次から分かれる4つの系列や興味・関心、進路希望に応じた科目の適切な選択に資するため、1年次で「産業社会と人間※」（2単位）を履修し、外部講師の講演などを通して、目指すべき進路を明確なものにしています。その結果、生徒一人ひとりが興味・関心に応じた時間割を作成することができました。
- ・生徒の進路ニーズに対応した人文系列、文理系列、理工系列、芸術系列の4つの系列を設置し、少人数指導などにより、質の高い授業を実践するとともに、進路ガイダンスや上級学校訪問などにより、希望進路を実現するための取組を積極的に行っています。
- ・「産業社会と人間」（1年次2単位）、「総合的な探究の時間」（2年次2単位、3年次1単位）では、積極的にキャリア教育を取り入れ、自己理解を促進する学習活動や、生徒自身による主体的な活動を通じて、自分の適性、将来の仕事について考える機会になっています。

※ 産業社会と人間：主として総合学科で開設される、生徒の主体的な進路選択能力を育成するための学習及び科目選択を考えるための学習を行う科目



＜キャリアセミナーにて講師を案内する実行委員生徒＞（左）

＜ホテルスプリングス幕張主催「ストロベリーフェア」にて同ホテルシェフから指導を受けるクッキング同好会生徒＞（右）

ウ まとめ

(ア) 成果と課題（○成果・●課題）

○系列ごとに設置された選択科目の中から、多様な選択ができ、一人ひとりの進路や適性に合った時間割を作成することにより、進路の目標に向かって、自ら進んで学習できるようになりました。

○1年次生を対象に海浜幕張駅周辺に立地する17の企業等から講師を招き実施したキャリアセミナーにおいて、実行委員の生徒は、外部講師に対する接遇等を通じて、社会人として必要な積極的な態度、ビジネスマナー等を身に付けようとしていました。また、生徒の主体性を引き出すため、生徒が教員とともに企画・運営に積極的に携わっていました。

●高大連携や外部講師による特色ある講座の実施等、生徒の進路希望に応じたきめ細かな取組をより一層行う必要があります。

●生徒の多様な進路希望に対応するため、生徒の興味・関心に応じた時間割の作成を支援するとともに、大学卒業後の就業までを見通した職業意識の高い人材を育成するため、個別かつ具体的なキャリア教育を推進する必要があります。

(イ) 今後の取組の方向性

- ・総合学科の特徴や魅力を、中学校や地域に対して、より一層発信していきます。
- ・卒業後の進路を見据えたキャリア教育の推進や、時間割の作成について計画的に取り組んでいきます。

【参考1】各系列選択者数の推移

年度	在籍者	人文	文理	理工	芸術
R 2	669名	292名	184名	164名	29名
		43.6%	27.5%	24.5%	4.3%
R 3	673名	205名	275名	171名	22名
		30.5%	40.9%	25.4%	3.3%
R 4	677名	269名	208名	146名	54名
		39.7%	30.7%	21.6%	8.0%

※2年次以降、各系列に分かれて、科目を選択する。

【参考2】出身中学校市町村別第1学年在籍生徒数の比較（設置前：普通科 → 設置後：総合学科）

※ 設置前と設置後も全区一区

※ 平成30年度普通科18学級（左）、令和3年度総合学科17学級（右）

学区別人数		学区別割合		市町村名																	
H30	R3	H30	R3	H30	R3																
第1学区																					
千葉市																					
238	188	33.0%	27.6%	238	188																
第2学区																					
習志野市		八千代市		船橋市		市川市		浦安市		松戸市											
297	311	41.1%	45.7%	33	42	19	23	108	103	56	67	47	34	34	42						
第3学区																					
柏市		流山市		我孫子市		鎌ヶ谷市															
26	36	3.6%	5.3%	11	12	7	14	2	2	6	8										
第4学区																					
白井市		印西市		成田市		八街市		佐倉市		四街道市		酒々井町		富里市		栄町					
72	59	10.0%	8.7%	5	5	7	6	9	8	6	7	15	17	23	15	2	1	4	1	0	
第5学区																					
香取市																					
1	1	0.1%	0.1%	1	1																
第6学区																					
芝山町		東金市		山武市		大網白里市		九十九里町													
7	20	1.0%	2.9%	1	0	2	7	1	6	3	5	0	2								
第7学区																					
茂原市		一宮町		睦沢町		白子町		長南町		長柄町		勝浦市		いすみ市		御宿町					
17	21	2.4%	3.1%	8	10	4	2	1	0	1	0	1	1	0	3	0	2	2	2	0	1
第9学区																					
木更津市		君津市		富津市		袖ヶ浦市		市原市													
64	45	8.9%	6.6%	5	5	5	2	1	1	12	4	41	33								
合計																					
722	681	100%	100%	相対的に第1学区（千葉市）の比率が減少し、第2・第3学区の比率が増加しました。																	

【参考3】設置科目数の比較（設置前→設置後）

平成30年度：114科目 → 令和3年度：105科目

他に、大学等における学修1～2単位、ライフスキルトレーニング1単位～

【参考4】主な連携先

- ホテルスプリングス幕張：同ホテル主催「ストロベリーフェア」（令和4年3月19日から25日まで開催、700名来場）に幕張総合高校「クッキング同好会」及び「美術部」の生徒が参加
 - ・クッキング同好会：同ホテルシェフの指導により、ケーキや洋食をお客様に提供する取組
 - ・美術部：レシピや料理を絵にする取組
- （公財）千葉国際コンベンションビューロー：海浜幕張駅前広場で「幕張イルミ」を開催し、幕張総合高校「ダンス部」及び「オーケストラ部」の生徒が参加
 - ・ダンス部：同会場にてダンスを披露
 - ・オーケストラ部：同会場のパラリンピック選手講演会の席でオープニング演奏、その模様は千葉テレビにも放映
- 大学等における学修（1～2単位）
 - （令和3年度実績）千葉大4名、多摩美術大10名、神田外国語大2名
- 美術館等における学修（1～2単位）
 - （令和3年度実績）県立美術館2名
- 高大連携先
 - 千葉大、千葉工業大、神田外国語大、中央大、東洋大、法政大、麗澤大、千葉商科大、女子栄養大

【参考5】生徒アンケート結果（幕張総合高校「総合学科」で学んでよかった理由）

- ・時間割を自分で作れることや自習環境の品質が高かったことが学習していく上でとても良かったから。
- ・コロナ禍のため制限が多く、フルで楽しめず、恨みがましいようなところはあるが、大半は楽しく過ごせたから。
- ・進路に応じて科目を選択出来る点が非常に良かった。入試で小論文があるが、塾に通わずに授業で対策することが出来た。
- ・気の合う友達に出会えたから。また、選択科目の量が多く、他の高校よりは自由に履修を組めたから。
- ・たくさんの人といろいろな事を学ぶことができ、多様な視点から物事を見れるようになったと思うから。
- ・自分のなりたい職業が決まっていたので、本当に必要な科目に集中して学べるのは大学やその先の進路実現により早く繋がると感じたから。
- ・自分の興味や必要に合わせて授業を選べることで効率が良いだけでなく、自分の授業日程を自分で把握しておかなくてはならないので、学校にいる間は常に授業や時間への意識がしっかりあったと思うから。また、周囲の友人も勉強への意識を強く持っている人が多いため、高め合える環境だなと感じるから。
- ・授業面では他校にはない選択授業で得意なものを選び、大学になる前の予行練習みたいな感じでいい経験になりました。
- ・中学校時代に人間関係で悩み休む事が多かったのが、課外活動を通じた友人関係の構築や通級によるコミュニケーション学習、先生方のフォローのお陰で、学校は楽しい所だと思えるようになった為。
- ・受験に必要な教科を選択できたことや、英語と数学のクラス分けがあったのが良かったと思う。
- ・友達に恵まれ、高校生活を無事に3年間過ごすことが出来そうだから。
- ・選択制の授業であったことで、早くから自分の受験科目などを考えることができた。
- ・芸術コースですが、音楽の勉強をするには設備がとても整っていて、自宅だけでなく学校にいる間も練習ができたことです。

【参考6】令和3年度卒業生の系列別進路状況（大学進学）

＜人文系列＞ 卒業生293名 大学進学197名(67.2%)

千葉大(教育)、都立大(経済経営)、青山学院大(文)、学習院大(経済)、慶應大(文・経済・商)、上智大(外)、中央大(法)、法政大(文・経営)、明治大(政治経済・法)、立教大(文)、早稲田大(商・教育) 等

＜文理系列＞ 卒業生187名 大学進学135名(72.2%)

千葉大(法政経・教育)、筑波大(医・体育)、東京学芸大(教育)、青山学院大(文・教育人間科学)、学習院大(法・経済)、法政大(法・キャリアデザイン)、明治大(政治経済・経営)、立教大(経済・コミュニティ福祉・現代心理)、早稲田大(教育) 等

＜理工系列＞ 卒業生154名 大学進学 88名(57.1%)

千葉大(工)、弘前大(理工)、信州大(工・教育)、前橋工科大(工)、学習院大(理)、芝浦工業大(工・建築)、上智大(理)、中央大(理工)、東京理科大(工・理工・先進工)、東邦大(理・薬)、法政大(デザイン工・理工・情報科学)、星薬科大(薬)、明治大(総合数理)、立教大(理)、早稲田大(教育・人間科学) 等

＜芸術系列＞ 卒業生 29名 大学進学 18名(62.1%)

日本大(芸術)、国立音楽大(音楽)、東京音楽大(音楽)、武蔵野音楽大(音楽)、多摩美術大(美術)、東京造形大(造形)、武蔵野美術大(造形) 等

4 社会のニーズに対応した教育

(1) 中高一貫教育校の設置

中高一貫教育校の具体計画の方向（プランより抜粋）

《併設型中高一貫教育校》

- 生徒・保護者及び社会のニーズ、配置バランス、地域の実情などを踏まえ、2校程度設置します。

ア 第1次実施プログラムにおける併設型中高一貫教育校の設置

(ア) 対象校

- ・東葛飾中学校・高等学校

(イ) 再編の内容（プログラムより抜粋）

- ・卒業までの6年間をとおして、きめ細かな指導を行うことで、生徒の新たな能力の発見やその伸長を目指し、東葛飾高校に県立中学校を併設します。

イ 実施状況

東葛飾中学校での特色ある取組

- ・アクティブ・ラーニング※1型授業、及びICT※2を活用した授業を実践しています。
- ・中学校版「東葛リベラルアーツ講座※3」を実施しています
- ・「クエストエデュケーション※4」を活用し、探究力やプレゼンテーション能力を育成しています。
- ・その他、伝統文化学習や地域（柏）研究、企業探究、職場体験、自由研究（研究論文執筆）、海外研修等に取り組んでいます。



< ICT活用授業 >

※1 アクティブ・ラーニング：グループワークやディベートなどの児童生徒等による能動的な学習方法

※2 ICT【Information and Communication Technologyの略、情報通信技術】：パーソナルコンピュータやタブレット端末、スマートフォンなどを使った情報処理や通信技術の総称

※3 東葛リベラルアーツ講座：東葛飾高校において、大学教授や各分野のスペシャリストの方などを講師として土曜日を中心に開講している、「一般教養講座」と「医療講座」合わせて50を超える体験型講座。講座内容によっては、東葛飾中学校の生徒も参加し、高校生と一緒に学んでいる。（東葛飾高校「学校案内」）

※4 クエストエデュケーション：2005年より「株式会社 教育と探求社」が提供する、現実社会と連携しながら「生きる力」を育む探究学習プログラム。2022年4月現在、全国37都道府県300校、5万7千人の中高校生が受講している。（教育と探求社ホームページ）

東葛飾高校での特色ある取組

- ・少人数授業、体験型授業、アクティブ・ラーニング型授業等、学びの本質を理解できる授業を展開しています。
- ・「総合的な探究の時間」での「自由研究」（課題探究型学習）や、「医歯薬研究」（コース選択者の学習）を通じて、プレゼンテーション能力を育成しています。
- ・進路の日として、大学見学や進路ガイダンスを実施しています。
- ・幅広い教養を身に付ける「東葛リベラルアーツ講座」を実施しています。
- ・その他、インターンシップ^{※6}や大学模擬講義、合格者報告会、医歯薬発表大会等に取り組んでいます。



<「医歯薬コース」実習>



<「東葛リベラルアーツ講座」>

令和2年度 魅力ある県立学校づくり大賞 東葛飾高校 優秀賞受賞

「東葛が東葛らしくあるために」（要約）

魅力ある学びについて

- ① 「自由研究」… すべての生徒が自主的にテーマを設定し、1年間の研究や実践を行う。東葛伝統の「自学自習」の根幹
- ② 「医歯薬コース」… 柏市医師会と提携し、病院や大学などから講師を招き、講義を受ける他、病院や大学での見学や実習を実施。その研究成果を論文として発表
- ③ 「東葛リベラルアーツ講座」… 大学の先生など各分野の専門家を招いたり、教員が専門分野を生かしたり、50を超す講座を開講。中学生や保護者も参加

中高連携での特色ある取組

- ・高校での学びにスムーズに移行できるように、中高のコラボ授業や、高校生がアシスタントティーチャーとして参加する課外補習等を実施しています。
 - ▷ 高校1年生と中学3年生が、国語（古典）の授業で協働学習
 - ▷ 夏季学習会にて、教員志望の高校生がメンターとして中学生の学習を支援



<中高コラボ授業（国語）>

- ・中学生に高校生活や将来への展望を持たせるため、中学校の「総合的な学習の時間」に高校生を招き、高校生活や学習について話し合いを行っています。
- ・「東葛リベラルアーツ講座」で中学生や高校生、保護者が土日、長期休業中に一緒に参加しています。

※6 インターンシップ：将来、就業を希望する会社や職種において、実際に一定期間、就業体験を行うこと。

ウ まとめ

(ア) 成果と課題 (○成果・●課題)

- 中学校段階から探究の素養（資料作成能力、プレゼンテーション能力）やICT活用能力が醸成され、教養や本質を身に付けた深い学びを実現しました。
- 研究活動や研修等の取組を通じて、主体的なキャリア形成^{※7}に繋げることができました。
- 中高の連携で豊かな人間性を育むとともに、ゆとりある中高接続で中高のコラボ授業等、特色ある学びを展開できました。
- 中学生の運動能力が県の平均に比べて低くなっています。
- 中高が連携した授業や学校行事の更なる充実が課題です。

(イ) 今後の取組の方向性

- ・中学校では、今後、部活動を、体づくりや新しい種目等を体験する「クラブ」へ段階的に再編し、運動能力の向上を図ります。
- ・6年間の継続した学びとなるよう、授業での連携を中心に更なる充実した取組を模索していきます。

【参考1】主な連携先

東葛飾中学校	○探究学習：株式会社 教育と探求社 学習教材「クエストエデュケーションプログラム」の導入*
東葛飾高校	○高大連携：東京理科大(薬)、国際医療福祉大(成田)、東京外国語大 ○医歯薬コース連携：柏市医師会 等

*令和4年度より高校でも導入

【参考2】生徒アンケート結果（「中高一貫教育校」で学んでよかった理由）

- ・ここでしか出会えないような仲間や先生方に出会えたこと、レベルの高い集団で切磋琢磨しあえて、他の学校にはできない経験ができたこと。
- ・中学校では様々な意見を持った人と関わりながら少人数で深い交流ができ、高校に入って外進生と関わることでさらに周りから良い刺激を受けることが出来てよかった。
- ・教科としての学問だけでなく、社会に出て人前で話せる力や、仲間と協力して一つの課題に取り組む能力も学ぶことが出来る学校だった。

【参考3】令和3年度卒業生の進路状況（内進生^{※8}）

種別	主な進路先
大学進学 61名	東京大、一橋大、筑波大、東京工業大、お茶の水女子大、早稲田大、慶應大、上智大 等
うち医歯薬系 2名	千葉大(薬)、東邦大(薬) ※医歯薬コース選択者は5名
就職 1名	公務員
未定 12名	(進学準備)

※7 キャリア形成：勤労観（「働く意味」）や人生の目標（「なりたい自分など」）を踏まえ、今成すべき事柄について考えていく過程のこと。

※8 内進生：内部からの進学生徒のことで、中高一貫教育校の中学校から入学した生徒。なお、他の中学校から中高一貫教育校の高校に入学した生徒は「外進生」（外部からの進学生徒）、又は「高入生」（高校からの入学生徒）と呼ばれる。

中高一貫教育校の具体計画の方向（県立高等学校再編計画より抜粋）

地域の特性を生かした中学校・高等学校の系統的な学習、異学年での体験学習や学校行事等を通して、生徒や教職員間の交流を促進する。

高等学校での設置学科については、既設学科の成果を踏まえ、地域の特性を生かした学科とする。

ア 第2期実施プログラムにおける併設型中高一貫教育校の設置

(ア) 対象校

- ・千葉中学校・高等学校

(イ) 再編の内容（プログラムより抜粋）

- ・新たに県立中学校を併設
- ・併設する中学校から千葉高校へ進学する際に入学者選抜を行うことなく、ゆとりある安定的な学校生活を送ることができます。
なお、千葉高校へは、他の中学校からの生徒も応募できます。
- ・中学校・高等学校の6年間のつながりのある計画的な学習を展開することができます。
- ・異年齢の生徒が、共通の学習活動や行事等を通して、お互いに触れ合うことにより、社会性や豊かな人間性を一層高めることができます。

イ 実施状況

千葉中学校での特色のある取組

- ・S H R前に毎日、朝読書を実施しています。
- ・「協働的な学び※1」による切磋琢磨した学びを展開するとともに、「スパイラル学習※2」による知識の定着と理解の深化を図る学習に取り組んでいます。
- ・少人数授業やティーム・ティーチング※3、ICTを活用した授業等、多彩な授業を展開しています。



< ICT活用授業 >

- ▷ 少人数授業：英語・数学（全学年）
技術・家庭（1学年）で各20名
- ▷ ティーム・ティーチング：理科（1学年）、国語（国語表現、2学年）
- ・学校設定教科「学びのリテラシー※4」による探究的な学びを通じて、情報の収集・取捨選択・整理するための技術や、話し合い・プレゼンテーション技術などを習得し、学びの基礎力を育成しています。

※1 協働的な学び：子どもたち同士が教え合い学び合う学び

※2 スパイラル学習：発達や学年の段階に応じた反復学習

※3 ティーム・ティーチング：特定の教科で複数の教員が協力して指導する方式

※4 リテラシー：適切に理解、解釈、活用する力

- ・総合的な学習の時間Ⅰ「ゼミ」にて、高い自己学習力（課題発見・追究・解決能力）とプレゼンテーション能力を育成し、その成果を「千葉中アカデミア^{※5}」（1、2学年）や「卒業論文」（3学年）で発表しています。
- ・総合的な学習の時間Ⅱ「プロジェクト」による、社会人講演会（OB・OG招聘、準備・運営は生徒主体）や、職場体験学習等を通じて、実社会への共感力や、社会貢献の志を育成するとともに、社会で自己実現を遂げる意欲の高揚を図っています。
- ・その他、地域の教育資源を活用した社会科校外学習、伝統文化学習、千葉大学医学部附属病院と連携した理科特別授業、国内語学研修、海外異文化学習等に取り組んでいます。

令和3年度 魅力ある県立学校づくり大賞 千葉中学校 優秀賞受賞
「世界とつながり活躍する次代のリーダー育成～中高一貫教育校の特色を活かした教育活動を通じて～」(要約)

魅力ある学びについて

- ① 「ゼミ活動」… 生徒自身が年間の研究テーマを設定して研究。その成果を「千葉中アカデミア」で発表。3年次に3年間の集大成として、「卒業論文」にまとめる。千葉高校での「千葉高ノーベル賞」の取組に繋げる。
- ② 外部機関と共同した授業づくり… 「理科特別授業」（千葉大学医学部と連携）、「言葉の授業」（新聞記者と連携）
- ③ 英語学習ソフトの取組（令和2年度研究指定校）… コロナ禍における新しい学習形態として全国から着目

魅力ある行事について

中高合同での取組 … 文化祭（9月）、体育大会（10月）

千葉高校での特色ある取組

- ・密度が濃く幅広い教養が身につく授業と、アクティブ・ラーニングによる学習活動を展開しています。
- ・「総合的な探究の時間」にて生徒一人ひとりがテーマを決めて調査研究した成果を、「千葉高ノーベル賞^{※6}」として発表しています。
- ・外部講師講演会や東京大学見学会、大学の先生による模擬講義等、自己実現を図るための進路行事を展開しています。



<理科特別授業>



<「千葉高ノーベル賞」受賞式>

※5 千葉中アカデミア：総合的な学習の時間Ⅰ「ゼミ」で各自、研究テーマを設定し、調査研究した成果を発表する場

※6 千葉高ノーベル賞：生徒一人ひとりが自分なりのテーマを見つけ、1年生から約2年間をかけて個別に調査・研究をしてまとめたものの中から、4分野（人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ芸術）において最も優れた作品に与えられる賞

中高連携での特色ある取組

- ・内進生が中学3年生に高校での学びや活動を紹介する進路行事を実施しています。
- ・中学校での高校の教員による模擬授業や、中高合同での行事を行っています。



＜中高合同体育大会＞

ウ まとめ

(ア) 成果と課題 (○成果・●課題)

- 中学校段階から生徒の主体性を育むとともに、知識の定着や理解の深化を図る学習に取り組んでいます。
- 語学研修や異文化学習、講演会等、主体的なキャリア形成に繋げることができました。
- 学校行事を中心に、中高の連携の交流を図ることで豊かな人間性を育むとともに、中高の一体感を醸成しています。
- 中高連携授業の取組等、6年間の継続した学びの充実が課題です。

(イ) 今後の取組の方向性

- ・中高の合同教科部会や研究授業の機会を増すなど、授業改善に取り組んでいきます。
- ・中高合同授業の実施を含めた6年間の計画的な学びを模索していきます。

【参考1】千葉中学校の主な学年行事 ※下線部は中高合同

1 学年	2 学年	3 学年
4月 オリエンテーション合宿	<u>5月 遠足</u>	<u>5月 遠足</u>
<u>6月 体育祭</u>	<u>6月 体育祭</u>	<u>6月 体育祭</u>
<u>9月 文化祭</u>	8月 職場体験学習	8月 夏季ボランティア
3月 総合学習発表会	<u>9月 文化祭</u>	<u>9月 文化祭</u>
	10月 伝統文化学習	10月 国内語学研修
	3月 総合学習発表会	3月 卒業論文発表会・海外異文化学習

【参考2】生徒アンケート結果（「中高一貫教育校」で学んでよかった理由）

<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の高い様々な友人ができ、切磋琢磨しあえた。 ・中高ともに素晴らしい学びの場を与えてもらえて恵まれていると感じた。また、どの教科においても、<u>千葉中の学びが確実に高校での学びのモチベーションになっている</u>うえ、学習内容についても、<u>千葉中での高度な学びが高校で授業についていくための手助けになっていた</u>。 ・高校受験がないので行事に全力で参加でき、自分が学びたいことや研究したいことを深く、じっくり追究できた。

【参考3】令和3年度卒業生の進路状況（内進生）

種 別	主な進路先
大学進学 63名	東京大、一橋大、東京外国語大、お茶の水女子大、東北大、筑波大、東京工業大、千葉大、早稲田大、慶應大 等
未 定 15名	(進学準備)

(2) 防災の学びの導入

観光・環境・防災に関する学びの具体計画の方向（プランより抜粋）

《防災》

- 東日本大震災の経験を踏まえ、各学校の防災教育※の充実を図るとともに、必要に応じて防災について学べる科目等を設置します。

ア 第3次実施プログラムにおける防災の学びの導入

(ア) 対象校

- ・市原八幡高校 普通科

(イ) 再編の内容（プログラムより抜粋）

- ・東日本大震災におけるコンビナート火災などの教訓を生かし、自然環境や社会環境との関わりを視野に入れた防災教育を推進するため、市原八幡高校に防災の学びを導入します。
- ・災害発生時における医療に関する知識や技術の習得など幅広い学びを導入します。

イ 実施状況

- ・災害発生メカニズムや地域の歴史及び防災体制について学ぶとともに、災害に対する備えや災害発生時の対応を体験的に身に付ける学習をしています。
- ・「防災の学び」（1年次・2年次、各1単位）を学校設定科目として導入しています。
- ・隣接の千葉県消防学校や防災研修センターと連携し、防災研修を実施しています。



<防災研修センター講座>



<帝京平成大によるAED研修>

※ 防災教育: 文部科学省では、学校における防災教育のねらいについて、

- ① 災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保できるようにする。
- ② 災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。
- ③ 自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにするとしている。

ウ まとめ

(ア) 成果と課題 (○成果・●課題)

- 生徒は自らの身だけでなく、他人の身も守る方法を身に付けられています。
- 学校独自の教材と教育体制を整備しています。
- 日常生活における生徒の防災意識を高めることができたと同時に、教員の防災教育への意識を高めることができました。
- 理科や地理、家庭科、保健体育などといった教科との連携が上手くいけば、より充実した教育ができると考えられますが、現状は連携ができていません。
- コロナ禍の影響により、2年間の計画どおりに進めることができた学年がまだありません。また、中学校や外部団体との連携も不十分でした。

(イ) 今後の取組の方向性

- ・学んだ成果を生徒自らの手でアウトプットしていく仕組みを整備します。
- ・様々な媒体を通じ、対象に応じた積極的な情報発信を推進します。
- ・学びの成果を外部に発信していくとともに、全県で共有する仕組みについて研究します。

【参考1】主な連携先

千葉県消防学校 防災研修センター	・防災研修の実施 ・心肺蘇生体験及び講義の実施 ※地域の防災士の方を講師として招聘しています。
千葉科学大	・疫病対策や災害時の心理学についての講演会の実施
帝京平成大	・AED研修会

【参考2】生徒アンケート結果（「防災の学びを」で学んでよかった理由）

・自分の命や他人の命を守るための行動を学ぶことができた。
・災害発生時の避難の仕方、安全確保の方法、二次災害について学ぶことが出来て、災害時に身を守る正しい方法を知ることが出来た。
・他校にはない、日本に住む上で回避できない災害に対して必要な事柄を学べた。

【参考3】令和3年度卒業生の進路状況

種別	主な進路先
大学 99名	東京電機大、神田外語大、日本大、武蔵野大、立正大、目白大、大妻女子大、桜美林大、二松學舎大、敬愛大、淑徳大、共立女子大、千葉工業大、千葉商科大、実践女子大、昭和女子大、帝京平成大、東京工芸大、和洋女子大、千葉経済大、京都芸術大 等
短大 20名	千葉経済短大、千葉明德短大、戸板女子短大、日本歯科大学東京短大 等
専門学校等 87名	千葉市青葉看護、北原学院千葉歯科衛生、千葉医療センター附属千葉看護、千葉医療福祉、船橋情報ビジネス、大原、東京IT会計公務員 等
就職 うち公務員 3名	国家公務員一般職(国土交通省)、千葉県職員(学校事務)、市原市職員、トヨタカローラ千葉、市原市農業協同組合、杉孝、三井造船特機エンジニアリング、かどや製油、電洋社、山九、昭和電工マテリアルズ 等
その他 13名	公共職業能力開発施設、(未定)

5 全日制高校の配置

(1) 統合

全日制高校の配置の具体計画の方向（プランより抜粋）

- 多くの友人・教師との触れ合いやお互いの切磋琢磨の機会を確保し、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるよう、学校の規模・配置の適正化を進めます。
- 多様な学校の中から、生徒が興味・関心、適性等に応じて学校が選べるように、各校の特色を更に深化させます。

ア 第3次実施プログラムにおける全日制高校の配置（統合）

(ア) 対象校

- ・市原高校、鶴舞桜が丘高校

(イ) 再編の内容（プログラムより抜粋）

- ・市原高校と鶴舞桜が丘高校を統合し、使用校舎は市原高校とします。
- ・統合校には、両校の学びを継承して普通科及び園芸科、商業に関するコースを設置します（コース名は今後検討します）。また、鶴舞桜が丘高校の福祉コース及び緑地管理コースも引き続き設置します。
- ・農業分野の学習のため、鶴舞桜が丘高校グリーンキャンパスは継続して使用することとし、生徒が移動するためのバスも引き続き使用します。
- ・地域との連携を積極的に推進し、地域の教育力を活用するとともに、引き続き地域に信頼され、必要とされる学校づくりを進めます。

イ 実施状況

- ・普通科では、2年生より「商業コース」を、3年生より「福祉コース」を選択できるようになっています。また、園芸科では、2年生より「野菜コース」、「草花コース」、「緑地管理コース※」に分かれるなど、生徒の興味・関心に応じた学びを、地域や関係機関との連携のもとで、一人一人の進路実現に応えられるようにしています。



<「福祉コース」の
介護実習> (左)

<園芸科「緑地管理
コース」> (右)

※ 緑地管理コース:市原高校が位置する市原市は、ゴルフ場の数が30か所以上と全国の自治体の中で最も多い数となっている(「広報いちほら」より)。こうした環境下で、平成26年度、鶴舞桜が丘高校食とみどり科に同コースを設置し、「ターフ管理」などの学校設定科目や、近隣ゴルフ場と連携した、ゴルフのコースメンテナンスやグラウンドキーパーとして必要な知識と技能に関する実習を行っている。

- ・園児への絵本の読み聞かせのボランティアなど、地域と連携した活動に取り組んでいます。
- ・外部講師を招いた説明会や講演会、特に3年生での進学・就職説明会など、進路決定に向けて計画的かつ丁寧な進路指導を行っています。



<リモートによる読み聞かせ>

ウ まとめ

(ア) 成果と課題 (○成果・●課題)

- 生徒が増えたことで、学習に対する競争意識や資格取得に対する意欲が高まりました。また、生徒会活動が活発になり、学校行事も文化祭を中心に生徒主体の取組ができるようになりました。
- 多様な学びを展開できるようになったことから、地域や関係機関などとの連携が一層活発になりました。
- 生徒の高校生活全般について、様々な方針を決めていったことで、わかる授業の実践、個々の生徒の実態を踏まえた根気強い生徒指導、ミスマッチの無い進路指導などに、職員一丸となって取り組めるようになりました。
- 個々の生徒に応じた適切な指導などから、生徒・保護者の学校に対する評価が概ね8割となっています。

<令和3年度学校評価の肯定的評価の割合()は令和2年度>

- ・学習指導の満足度 生徒：75%(76%)、保護者：76%(80%)
- ・生活指導の満足度 生徒：82%(82%)、保護者：81%(84%)
- ・入学しての満足度 生徒：77%(77%)、保護者：84%(90%)

- 積極的にホームページの更新を行い、学校での活動を発信していますが、保護者などには十分に伝わっておらず、ホームページを見てもらうための工夫が必要です。

(イ) 今後の取組の方向性

- ・日常的な学校生活や特徴のある取組などを中学生や保護者、学校関係者に周知できるように、掲示物を作成・配布するなど、更なる積極的な広報に努めます。

【参考1】主な連携先とボランティア先

< 連 携 先 >	<ul style="list-style-type: none"> ・市原市:ゴルフの街いちはらの推進、「市原地域探究」のカリキュラム導入、市原市南部活性化事業 ・市原商工会議所:キャリア教育活動の普及・促進に向けての連携、講演会やガイダンス等を計画 ・近隣の福祉施設(福祉コース):講師派遣、生徒の実習先 ・近隣の農家及び農業法人(園芸科):地域の農業を知るための見学会 ・近隣のゴルフ場(緑地管理コース):見学及び研修会
< ボランティア先 >	<ul style="list-style-type: none"> ・「館山自動車道市原サービスエリア(上り線)」の花壇装飾(年2回実施) ・「小湊鐵道上総牛久駅」の花壇装飾(園芸科)・美術作品展示(不定期)

【参考2】生徒アンケート結果（「市原高校」で学んでよかった理由）

- ・仲の良い友人ができたから。
- ・自分の学力に見合い、部活動で己を研ぐことができたから。
- ・普通の高校では学べない園芸の事が学べるから。
- ・勉強だけでなく色々なことが学べたから。

【参考3】令和3年度卒業生の進路状況

学 科	コース	卒業生数	進路						
			大 学	短期大学	専門学校等	就 職	公務員	その他	未 定
普通科	普通	49	5		17	20	1	1	5
	商業 (うち商業系進路3)	22	3 (1)	1	6 (1)	11 (1)			1
	福祉 (うち福祉系進路1)	12		1	8 (1)	1	1		1
園芸科 農業系 進路◎ 就農者 0	野菜 (うち福祉系進路1 福祉コース選択者)	7			1 (0)	6 (1)			
	草花 (うち福祉系進路1 福祉コース選択者)	8	1			6 (0)(1)			1
	果樹	7				5			2
	緑地 管理 (うち緑地管理系進路0)	6				5			1

- 各コースは、福祉コース（3年生から）を除いて、2年生から選択
- 福祉コース選択者は、普通科12名と園芸科(野菜・草花)2名の合計14名
- 就農者は、「自営農業に従事」もしくは「農業法人等に常時雇用されたことにより農業に従事」となった者
- 各コースにおけるコースの学びを生かした進路決定率：商業系 13.6%(コース選択者22名のうち3名)、福祉系 21.4%(コース選択者14名のうち3名)、緑地管理系 0%(コース選択者6名のうち0名)、農業系 7.1%(園芸科生徒数28名のうち2名)、就農率 0%(園芸科生徒数28名のうち0名)
- 果樹コースは令和3年度まで設置

6 令和元年度再編実施分プラン評価のまとめ

(1) 評価を終えて

県教育委員会では、プランの実施状況及び成果や課題を把握し、より一層魅力ある県立学校づくりを推進するとともに、今後の高校改革に係る計画の策定に資することを目的とし、評価を実施しました。

令和元年度に再編を実施した5校、今回評価対象として加えた2校は、プランにある「改革の方向性」に沿い、「基本コンセプト（目指すべき県立高等学校像）」の実現に向け、一定の成果を上げており、魅力発信に向けた広報の改善など課題はあるものの、「魅力ある学校づくり」という目的を概ね達成できたと考えます。



(2) 評価の改善に向けた取組

「保育基礎コース」及び「福祉コース」は、不足する人材の育成という目的のもと設置したコースです。両コースともに、高い目的意識を持った生徒がコースを選択しており、外部講師による授業や、実習・ボランティア活動を通じた地域との交流・連携といったコースの特徴的な学びに、生徒や保護者から高い評価を得ています。課題としては、定員の拡充や外部講師との円滑な連携などがあげられます。その学びを活かした進路では、「保育基礎コース」では、保育系進路が約7割、「福祉コース」では、卒業生全員が介護職員初任者研修の資格を取得していますが、福祉系進路は4割となっています。

「総合学科」については、学科の特色であるキャリア教育の取組について、地域の企業の協力を得ながら生徒主体で進められています。また、4つの系列の学びを活かした時間割を作成し、個々の進路実現に向けた学習への取組が行われており、その学びを活かした進路に概ね進んでいます。大学等卒業後の就業を見据えたキャリア教育の更なる推進が課題となっています。

「中高一貫教育校」では、中高の連携が大きな課題となっておりますが、中高連携での特色ある取組にありますとおり、中高のコラボ授業であったり、中高合同の学校行事であったり、両校では様々な取組を行っておりますが、生徒や保護者のアンケートからは、「連携」、「接続」という点で否定的意見も散見されました。

「防災の学び」については、自助共助の精神の育成や、生徒・教員の防災意識の高揚といった成果があった一方で、校内外の連携不足や、中学校のアンケートから学びの導入が地域に浸透していないとの指摘もありました。今後は、東日本大震災の教訓に学ぶということもさる事ながら、これからの時代に必要な学びであることを、積極的に広報していくことが必要と考えます。

市原高校は、統合以来、普通科3クラス、園芸科1クラスの募集で小規模な学校ではありますが、統合により学校の活性化や、多様な学びの展開に成果がありました。課題としては、在校生だけでなく、中学生にも市原高校の多様な学びを知ってもらえるよう、ホームページなど広報活動の工夫があげられます。また、各コースの学びを活かした進路実現も課題と考えます。

(3) 学びの継承、発展に向けた取組～中高一貫教育校について～

東葛飾中学校・高校の保護者の授業内容の満足度では、7割程度となっています。理由については、自由記述から、探究的な学びをしていた中学校に対し、従来どおりの高校での授業スタイルに否定的評価があったと考えます。また、中学校で探究的な学びをしていた中学生が、コロナ禍の中で高校に入学し、グループワークや、アクティブ・ラーニングなど協働的な学びが制限されてしまったことも理由として推測されますが、6年間という継続的な学びの中で、中学校の学びをどう高校に継承していくかが課題と考えます。なお、現在、高校では、中学校で取り組んでいた探究的な学びを1年生で取り入れるなど、継続的な学びに向けて取り組んでいます。

<生徒及び保護者アンケート調査結果から>

学校名	対 象	授業内容の満足度(%)		コース、学科等の満足度(%)	
		肯定	否定	肯定	否定
市川南高校 (保育基礎コース)	生 徒	100.0	0.0	94.7	5.3
	保護者	94.7	5.3	100.0	0.0
我孫子東高校 (福祉コース)	生 徒	95.0	5.0	100.0	0.0
	保護者	100.0	0.0	100.0	0.0
幕張総合高校 (総合学科)	生 徒	86.3	13.7	97.4	2.6
	保護者	86.6	13.4	94.2	5.8
東葛飾中学校・高校 (中高一貫教育校)	生 徒	86.1	13.9	88.9	11.1
	保護者	73.8	26.2	92.9	7.1
千葉中学校・高校 (中高一貫教育校)	生 徒	83.8	16.2	94.6	5.4
	保護者	88.6	11.4	91.4	8.6
市原八幡高校 (防災の学び)	生 徒	82.6	17.4	90.2	9.8
	保護者	82.6	17.4	89.4	10.6
市原高校(統合) 未回答があるため100%にならない。	生 徒	85.6	13.5	82.0	17.1
	保護者	76.6	13.8	86.2	10.6

(4) 外部関係団体の意見から

ア 保育基礎コースの設置（市川南高校）について

概ね好意的な評価をいただいておりますが、「コース希望者が全員コースを選択できるようにするべきではないか」「『保育とは何か』という保育原理的な押さえも必要ではないか」など、コース設置のあり方や学びの内容に関する意見もありました。また、卒業後、上級学校への進学、就職に至るキャリアデザインを考えていくとともに、保育士等となって地元に戻元する人材となることでコース設置に対する地元の理解と期待が得られるとの意見もいただきました。

イ 福祉コースの設置（我孫子東高校）について

福祉を通じた地域との交流、コースでの丁寧な学びに好意的な評価をいただいております。一方、「授業を通じて介護の魅力を伝えてほしい」「コースを希望する生徒が全員選択できるように対応してもらいたい」「小中学校との交流を通じて、コースの学びを広げてもらいたい」などの意見もいただきました。今後も地域や関係施設との連携、交流を通じて、福祉の学びを広げていきたいと考えます。

ウ 総合学科の設置（幕張総合高校）について

多様な選択科目が開設され、多くの学びが提供されていることに好意的な評価を得ています。一方、「総合学科になって何が変わったか教員もわかっていない」「生徒数が多いため、目的等が不安定な生徒への支援には工夫が求められる」などの意見もあり、積極的な広報と、より丁寧な指導が求められています。

エ 中高一貫教育校の設置（東葛飾中学校・高校、千葉中学校・高校）について

両校ともに、6年間の学びが探究的な学びを土台に効果的に展開されていることに評価を得ています。一方、「6年間でどういう学びをしていくかを全体で考えられた方がもう少し良いのではないか」「他の中学校ではやらないところを伸ばし、リーダーを育ててほしい」などの意見もありました。今後は、学びの継続性ととも、中高の連携に一層取り組むなど、中高一貫教育校ならではの特色を更に引き出すことが必要と考えます。

オ 防災の学びの導入（市原八幡高校）について

防災の学びやその意義について好意的に評価をいただいておりますが、防災の学びを積極的に広報していくとともに、防災の学びで得た知識をどのように活用していくかが課題との指摘がありました。今後も消防学校との連携を密にしながら、いざという場合に必要な学びであることを全県的に広めていければと考えます。

カ 統合（市原高校）について

地域の学校として、地域と連携し、地域に人材を輩出、還元することを地域の方々も求めているとの意見です。しかし、「統合により普通科に加えて、商業、福祉、園芸、緑地管理などカリキュラムが豊富になったが、専門的な学びを進路に生かし切れていない」「いろいろなコースがあってもよくわからず、それだけに伝わっていない」との意見もありました。学びの成果をより地域に見える化できるよう、より積極的な広報が必要と考えます。

キ 再編全般について

様々なコースや学びを選択できることに好意的な評価をいただきました。また、キャリア教育という視点から、「具体的に高校に入ってからの内容が見えていると、生徒にとって高校選択の材料となり、教員も進路指導がやりやすい」とありました。また、再編後について、「作った後に各学校で課題が見えてくるので、作って終わりではなく、課題を克服するためのフォローが必要である」「本当にその再編が必要だったのか客観的に評価する必要がある」とありました。当該評価を形骸化することなく、きちんと再編での取組を総括し、既設校への必要な支援を行うとともに、新しい再編プログラムに活かしていきたいと考えます。

ク 今、社会が求めている人材について

コースや学びから人材の確保を期待する声や、コミュニケーション能力や適応力など具体的な資質を求める意見がありました。また、「社会が求めるリーダー像は世界だけではなく、地域に根付いたリーダーもいる。束ねるだけではなく、それぞれの場所で活躍できるリーダーが必要」との意見がありました。県教育委員会では、人材の育成について、「県立高校改革推進プラン」の中で「スクール・ミッション」として4つの観点を示しています。今後も同ミッションに基づく各校の「スクール・ポリシー」での取組を県教育委員会として支援していきます。

ケ 県立高校に期待すること、県教育委員会が進めている「県立学校の魅力づくり」について

以下の御意見（概略）をいただきました。

- ・ 専門学科や地域連携、豊富な教員の人材という公立の強みを意識
- ・ 高校生から高校改革の議論に参画、高校生から高校の魅力を発信
- ・ 過疎地での全国募集とスクールバスの運行を検討
- ・ 職業教育の更なる充実
- ・ 文化を継承する学び
- ・ 学校と地域との連携・協働
- ・ 多くの学校で福祉マインドを醸成
- ・ 学校間連携の他、企業との連携
- ・ 偏差値ではない学校選び
- ・ 情報発信の更なる工夫、積極的な広報
- ・ 学びの先（出口）に見えるものを明確化
- ・ 農業教育に経営的視点
- ・ リーダー人材の育成 等

今後の高校改革の方向性として参考にさせていただきます。

（５）終わりに

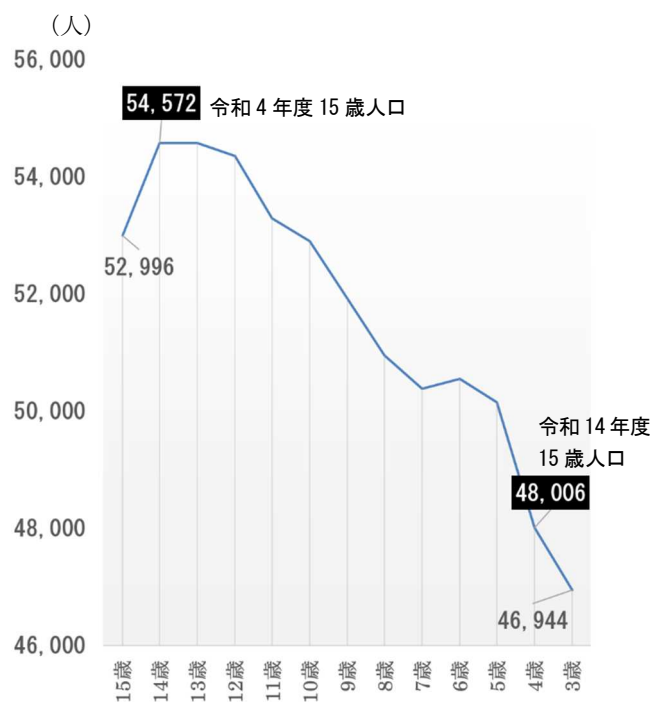
千葉県総合企画部統計課の統計によると、今後更に少子化が進み、令和4年度の15歳人口が、10年後の令和14年には現在より約6千人も少なくなると予測されています。

したがって、県立高校を取り巻く環境は、ますます厳しくなることが推測されますが、次代の本県を担う人材の育成のために、引き続き、魅力ある学校づくりを推進してまいります。

再編実施校では、既に「授業内容の工夫・改善」「校内での連携強化」「地域との連携の拡充」「キャリア教育の推進」「広報活動の見直し」など、更なる魅力ある高等学校づくりに向け、検討、準備、実施をしています。

魅力ある学校づくりを進めるためには、学校や行政、生徒、保護者、地域の方々など学校に関わるあらゆる人々が、生徒の明るい未来のために、ともに手を携えていくことが必要です。今後も魅力ある学校づくりに対して、御支援・御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

県教育委員会としては、「県立高校改革推進プラン」に基づく、実施プログラムを通じて、引き続き学校の魅力化・特色化に取り組んでまいります。



(出典：令和3年度千葉県総合企画部統計課統計)

Ⅲ 資料

1 普通科及び普通系専門学科・コース

(1) 保育基礎コースの設置

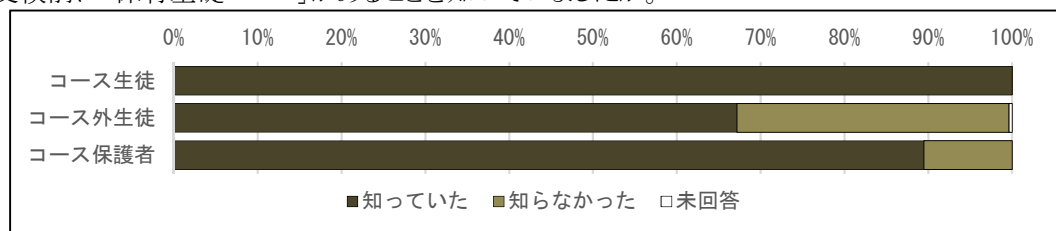
【市川南高校】

ア 生徒及び保護者アンケート調査

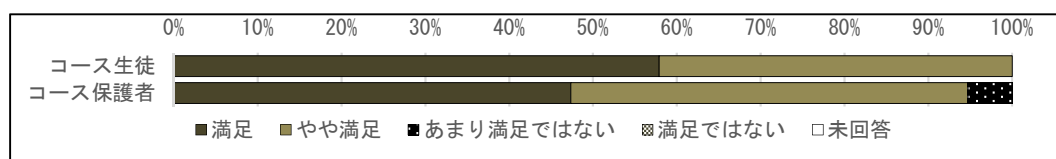
(ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和3年12月
- ・回答数 コース生徒19名、コース外生徒278名、コース選択者の保護者19名

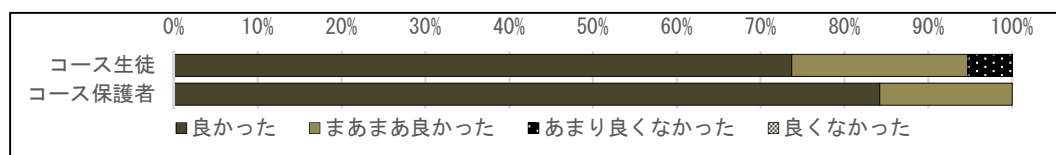
(イ) 受検前に「保育基礎コース」があることを知っていましたか。



(ウ) 「保育基礎コース」の授業内容に満足していますか。



(エ) 「保育基礎コース」を選択して良かったですか。



【(エ)生徒の主な理由】

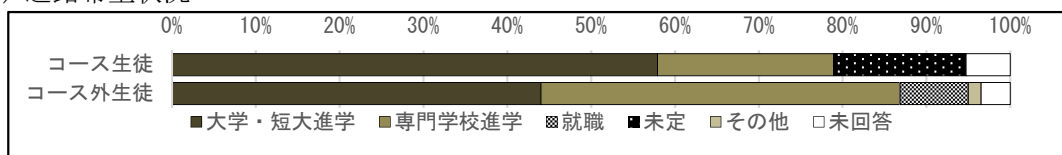
- ・ピアノの練習が出来た。少人数だから、上手く話せた。分からなくても優しく教えてくれた。
- ・検定取得のための練習があったり、子どもについての様々なことについて学ぶことができたから。将来に役立つことがたくさんあったから。
- ・楽しい。子どもや子育てなど、知らないことをたくさん知れる。
- ・学びを深めたり、作品作りや検定などに取り組めたため。
- ・将来につながられて、短大もえらびやすくなった。
- ・進路を決めやすかったから。
- ・子どもと関わりたいとより思いました。
- ・自分が保育士に向いていないことを学べた。
- ・得られる資格があり、楽しく学べた。
- ・保育基礎コースに入るために学校を選んだ。とても満足している。
- ・保育について深く学ぶことができたから。
- ・保育者になった時に使えるような工作の歌を学べたから。
- ・将来につながることを学べたし、たくさん友達ができた。
- ・高校卒業してから学ぶのと、高校で学ぶのでは、大きな違いがあると思うし、検定を得ることができたから。

【(エ)保護者の主な理由】

- ・希望する職種に近づく内容を身に付ける事ができたから。
- ・保育に必要な基礎的な事が身に付き、今後、自分の子供が出来た時にも役立つと思います。

- ・希望していた通りの勉強ができた。
- ・本人の小学生からの夢をかなえる大きな一歩になったと思います。正直、コロナがなければ、もう少し幅広い学習ができたのではないかと思います。残念です。
- ・基礎的な知識を学べたのではないかと思います。将来を見すえての体験が出来て、良かったと思う。
- ・自分が選んだ進路なので、生き生きと課題に取り組んでいるので、良かったと思っています。検定なども合格する為に、家でも練習する姿を見たりと、取り組む姿でやる気を感じる事ができました。
- ・保育についての知識が増えた。コロナで行けるはずだった体験学習（保育園）が無くなって残念でしたが、資格取得など、将来につながる勉強が高校生の間にてきて良かった。
- ・大学、短大に進学する前に、保育の仕事がどのような仕事が体験できる。また、その体験を通して、自分にとって向き、不向きか考えられる時間が持てる。
- ・保育士の仕事を早い段階ですが学ぶ事で、本当に保育士になりたいのか、再確認できたと思ったからです。
- ・保育園や幼稚園への就職希望でしたが、三年間学んで、自分には向いていないということが分かった。おり紙に苦戦。別の選択をする事が出来た。又、学んだ事は将来、役に立つこともあると思うので、ムダではなかった。

(オ) 進路希望状況



※令和4年3月卒業生実績 コース選択者19名のうち保育系進路13名（下線部）

【大学・短大進学】3名（保育系3名）

植草学園大（発達教育学部）、帝京平成大（児童学科保育幼稚園コース）、和洋女子大（家政学部家政福祉学科）

【短期大学】8名（保育系8名）

千葉明德短大（保育創造学科）、千葉経済大学短大（子ども学科保育コース）、昭和学院短大（人間生活科）、貞静短大（保育学科）、有明教育芸術短大（子ども教育学科） 等

【専門学校】6名（保育系2名）

東京教育（幼稚園教諭・保育士養成科）、東京福祉保育（子ども保育学科） 等

【就職】1名（保育系0名）

【公務員】1名（保育系0名）

イ 当該校への聴き取り(抜粋) ※令和4年3月実施

(ア) 「保育基礎コース」の目標や特色

- ・保育系の進路を目指そうとする生徒が、保育の基礎知識を学び、体験などを通して将来の目標をより明確にするコース

(イ) 学習への取組

- ・20名を2クラスに分け、家庭科教諭4名、同非常勤1名の計5名で運営している。
- ・幼稚園教諭、保育士になりたいと強い意志を持った生徒が入学し、何事にも積極的に取り組める生徒が多い。特に上級学校でも保育を学びたいと考える生徒は、主体的に授業に参加し、生き生きとしている。
- ・近隣の幼稚園、保育園での実習や、大学・短大の先生による特別授業など、生徒の興味や関心、意欲を最大限に引き出す取組を行っている。

(ウ) 「保育基礎コース」設置の成果

- ・市のボランティア参加、近隣の幼稚園、保育園など実習を通して地域との交流を深めることができ、授業等について協力体制を得られた。

(エ) 現在の課題

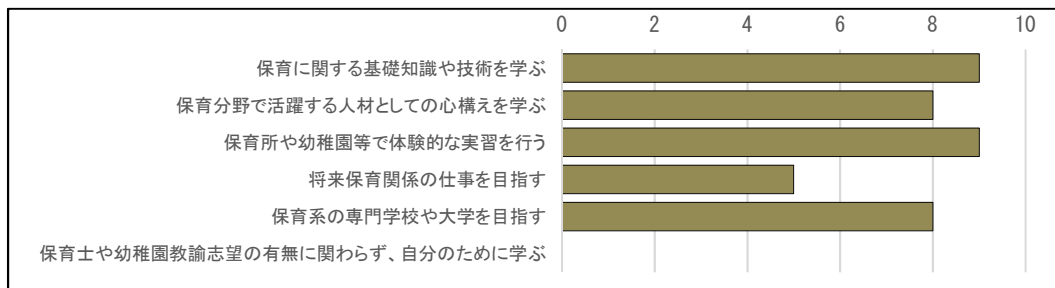
- ・コロナ禍における実習の実施、専門的に指導を行える教員の配置、全教員からの理解

(オ) 近隣中学校の状況

- ・概ね現状のままでよいとの評価をいただいている。

ウ 近隣中学校（20校）へのアンケート

(ア) 「保育基礎コース」の取組として、良いと思うものはどれですか(各中学校2つまで)



(イ) 中学校からの意見(抜粋)

- 保育基礎コースについて、「工夫・改善すべき課題がある」の具体的な意見
 - ・人数が少なく、大学との連携もさだかではない。
 - ・コースから資格取得を強く目指す専門学科への再編
 - ・今後、保育基礎御コースを希望する生徒が増えた場合でも、希望する生徒すべてが保育基礎コースで学べる体制づくり
 - ・大学や専門学校と連携して、もし可能なら進学時に保育関係や幼稚園教諭を目指せる学校に優先的に入学できるシステムができるとよいと思います。
 - ・保育学科を設置（1～2クラス）すると良いのではないかと考えます。学んでみたいと考える生徒はいると思います。
- 保育基礎コースに期待することや、市川南高校がより魅力ある学校となるために改善した方がよいと思うことの見解
 - ・まだまだ広く知られていないように感じるので、多くの生徒、保護者への周知がされるとよいと思います。
 - ・保育コース設置初年度は、多くの生徒が希望していましたが、希望しても入れないことで市川南高校の希望者が減少してしまいました。学べる生徒を増やし、保育関係のカリキュラムも増やすことで魅力も増すのではないかと考えます。
 - ・将来、保育士を目指す生徒の夢を育む充実したカリキュラムがあるとよいと思う。高校での実習を増やし、専門学校や短大等の単位に計上できるようになると存在意義が高まると思います。
 - ・部活動を以前のように力を入れる、多くの部活で県ベスト8、16をねらえるようにする。
 - ・Society5.0の社会に向けた教育に特化した学校。又は、逆に人間関係プログラムに特化したもの
 - ・将来、保育関係の仕事につきたいという理由で志望している生徒もいるので体験的な授業を充実していただきたい。
 - ・外部企業との連携、地域との連携
 - ・私立高校はもっときちんと位置づけて行っている。見ならうべきではないでしょうか。
 - ・南校の保育基礎コースで学んだ生徒が、そこで学んだことを将来生かすことができる職業に1人でも多く就くことができるとよいと思います。
 - ・保育関係に進学できる方向性もいいかと思います。またその他の生徒さんたちが入学後の目標を設定できると今以上に魅力的な学校に発展すると思います。市川＝地元の学校なので、みんなで盛り上げていければと考えています。
 - ・保育士や幼稚園教諭になるためにコースを選択した生徒一人一人がしっかりとキャリアデザインを描き、実現できるような指導をお願いしたい。

2 職業系専門学科・コース

(1) 福祉コースの設置

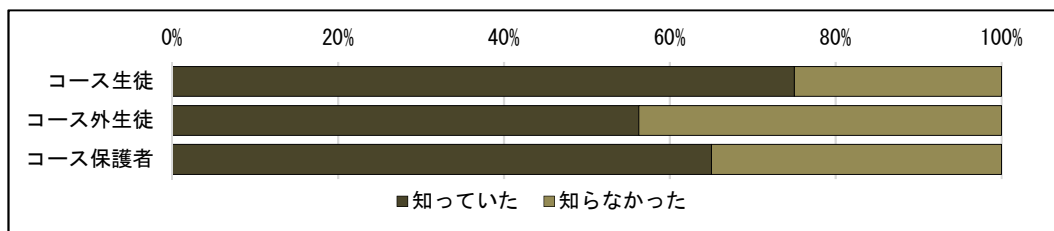
【我孫子東高校】

ア 生徒及び保護者アンケート調査

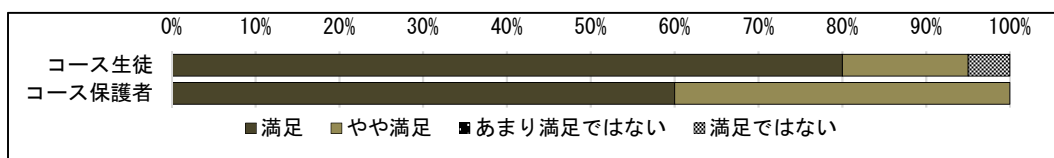
(ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和3年12月
- ・回答数 コース生徒20名、コース外生徒176名、コース選択者の保護者20名

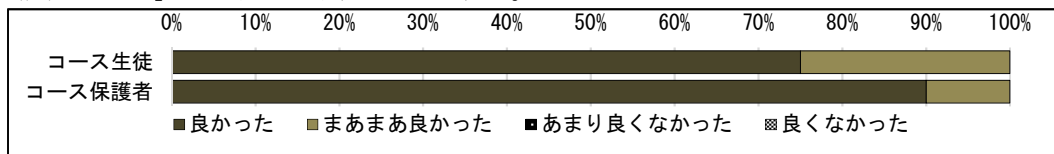
(イ) 受検前に「福祉コース」があることを知っていましたか。



(ウ) 「福祉コース」の授業内容に満足していますか。



(エ) 「福祉コース」を選択して良かったですか。



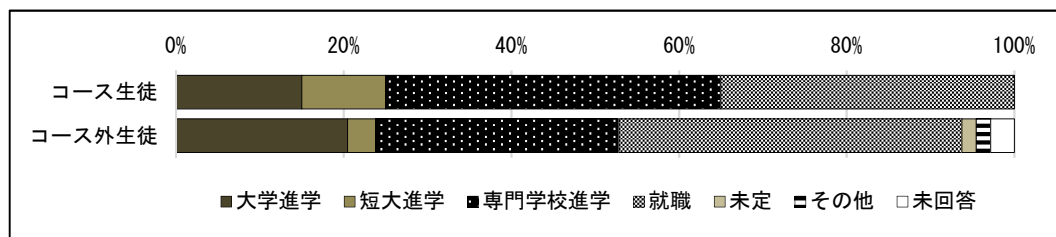
【(エ)生徒の主な理由】

- ・福祉について関心のある人達と勉強をすることによって、新たな考え方や共感することが出来たから。
- ・資格を取るため先生や友人と支え合い、また、協力して取り組めるため。
- ・福祉について詳しく学べ、資格も取れ、とても良かった。
- ・全員が一発で、介護職員初任者研修を取得できたから。
- ・勉強が大変だった。

【(エ)保護者の主な理由】

- ・初任者が取得でき、介護について学ぶ事ができたので。
- ・福祉のことが知れて、よかった。
- ・福祉の勉強もできて、資格も取れて、将来の目標が決まった。
- ・福祉コース新設され、先生方も実習計画、授業計画、大変努力されたと思います。全員資格合格されたと聞いております。ありがとうございました。
- ・楽しそうに学んでいたため。
- ・本人の希望通り介護職につく事が出来たので、良かったと思います。
- ・無事に資格取得することが出来安心しました。将来、資格を生かし、仕事をする事が出来るので良いと思います。
- ・福祉コースで学んだことを活かして、就職先でも実践できるから。
- ・将来、やりたいと思う職業が見つかった。
- ・福祉コースを選択し、自分で決断して就職する事が出来た。
- ・将来のステップとなりよかったと思います。
- ・学校の授業で習ったことを、家庭でよく話していた。もともと基礎教科の学習には意欲的ではなかったが、福祉に関する事は興味を持てたように感じた。特に実習は、経験したことのない内容で、本人にとってはいろいろと考える良い機会になったと思う。
- ・母親の仕事(介護)の内容について、少しでも理解することが出来るようになった。

(オ) 進路希望状況



※令和4年3月卒業生実績 コース選択者20名のうち福祉系進路8名（下線部）

【大学・短大進学】5名（福祉系1名）

淑徳大、亀田医療大、昭和学院短大 等

【専門学校】7名（福祉系1名）

江戸川学園おおたかの森、成田国際医療福祉、柏リハビリテーション学院、パリ総合美容 等

【就職】7名（福祉系6名）

みどり荘、八幡苑、アコモード、ヴィヴァンホーム柏、マザースガーデン、生活クラブ、ANAインターコンチネンタルホテル東京

【その他】1名（未定）

イ 当該校への聴き取り(抜粋) ※令和4年3月実施

(ア) 「福祉コース」の目標や特色

- ・介護職員初任者研修を生徒の実態に合わせて1年6ヶ月かけて修得する。
- ・地域福祉に貢献できる人材を育てる。

(イ) 学習への取組

- ・同じ目標を持っているので、生徒同士の結びつきが強い。
- ・進路活動も取り掛かりが早い。外部講師に影響を受け自身の夢を決めた生徒もいる。
- ・支え合う、寄り添うことを学び、人間的に大きく成長した。

(ウ) 「福祉コース」設置の成果

- ・受験を希望する中学生の中に、福祉コースに入りたいという生徒がいる。
- ・近隣の福祉施設からボランティアに来て欲しいという問い合わせもあり、福祉コースが浸透してきている。

(エ) 現在の課題

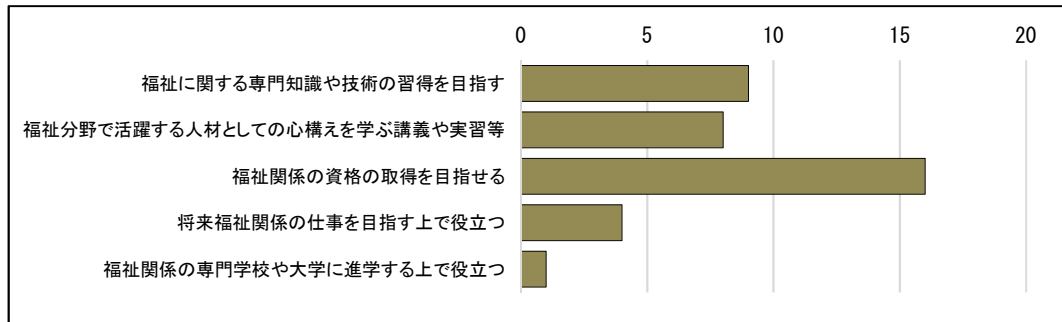
- ・外部講師との更なる連絡・調整が必要である。
- ・コロナにより、外部での実習が十分に実施することができなかった。

(オ) 近隣中学校の状況

- ・福祉コースについて認知は進んでいるが、ソース（HPでの情報）が少ない。

ウ 近隣中学校（19校）へのアンケート

(ア) 「福祉コース」の取組として、良いと思うものはどれですか（各中学校2つまで）



(イ) 中学校からの意見（抜粋）

- ・福祉コースの魅力が卒業生等が発信する機会があると、なお良い。
- ・福祉コース卒業生がどういう進路に進まれたのか、また、いつ頃どうして福祉コースに進もうと考えられたのかを、ホームページ等で広報していただけるとありがたい。
- ・高齢化社会がいつそう加速することが予測されるなかだけに、人材の育成は急務であるとする。
- ・まずは、（コース設置校を）増やすより、今の活動カリキュラムを確実に実践していくことに、力を置くべきかと考える。
- ・高校に在学しているときに専門的な知識や技能を習得できる機会があるというのはとても良いことだと思う。福祉に関する仕事に就きたいと考える高校生が増えることを期待したい。
- ・地域の小・中学校との連携を増やし、福祉教育の大切さを支える学校となることを期待している。

3 総合学科

(1) 総合学科の設置

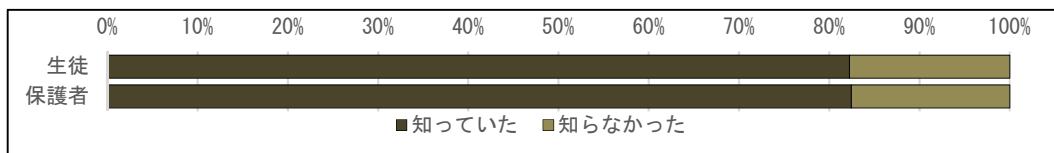
【幕張総合高校】

ア 生徒及び保護者アンケート調査

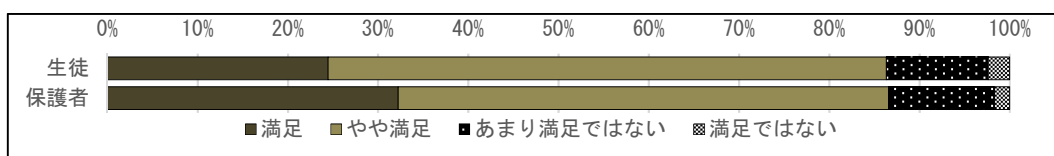
(ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和3年12月
- ・回答数 生徒631名(3年生)、保護者302名(3年生保護者)

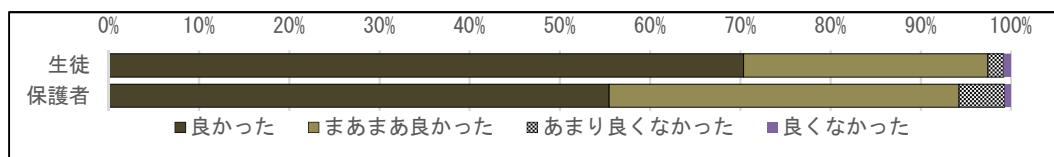
(イ) 受検前に「総合学科」に改編することは知っていましたか。



(ウ) 「総合学科」の授業内容に満足していますか。



(エ) 「総合学科」で学んで良かったですか。



【(エ)生徒の主な理由】

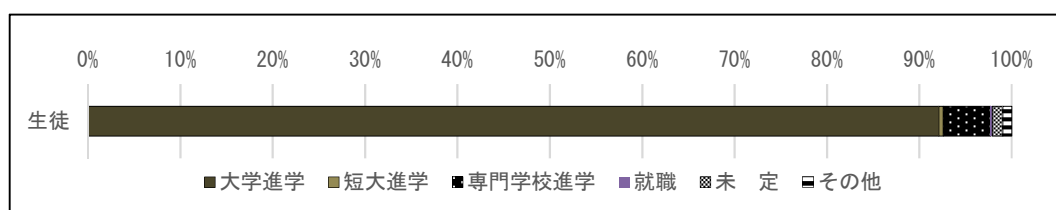
- ・進路に応じて科目を選択出来る点が非常に良かった。入試で小論文があるが、塾に通わずに授業で対策することが出来た。
- ・他の学校では中々学べない中国語を履修できた。
- ・授業面では他校にはない選択授業で得意なものを選べたり、大学になる前の予行練習みたいな感じでいい経験になりました。
- ・自分で日課表を組めるのが良かったです。人文系列は必要が無い人であっても数学Ⅱが必修であるなど、前年までの普通科よりも総合学科の方が、縛りが多い気がしました。
- ・学校生活はとても充実していたが、履修を上手く組めず現在少し厳しい部分があるのもっと履修について手厚くしてほしい。
- ・教科ごとに移動があり、様々な生徒と関わりをもてた事は良かった。
- ・マンモス校ならではの文化祭の規模や部活の種類の豊富さであったり他では体験出来ないことを経験出来た。将来のやりたいことが見つかったから。
- ・先生によって授業の質に差があったが、自分で履修を決められるのが良かった。
- ・自分のやりたいことが選んで、進路に向けた準備が着実にできたから。

【(エ)保護者の主な理由】

- ・中学校時代に人間関係で悩み休む事が多かったのが、課外活動を通じた友人関係の構築や通級によるコミュニケーション学習、先生方のフォローのお陰で、学校は楽しい所だと思えるようになった為。
- ・選択制の授業であったことで、早くから自分の受験科目などを考えることができた。
- ・たくさんの選択肢の中から自分で考える力をつけられたと感じた。
- ・大学へ向けて、やりたい事の方向性が見つけやすかった。
- ・興味のある科目を選択でき、楽しく授業をうけることができたようです。
- ・自分で科目選択することで、更に興味がある科目などがよくわかり、進路をきめるときにとても役に立っていたと思う。

- ・大学で学びたい学部を早く決められたのがよかったです
- ・生徒の数が多すぎるかもしれません。先生は生徒のことをよく知らないみたいです。相談できるような先生はいませんでした。
- ・自分の学びたいことに沿って 授業を組み立てられる。
- ・大学受験で必要になった科目をメインに選ぶことが出来た為、効率よく学べた。
- ・自主性を大事にしているのは分かりますが、先生が放置し過ぎな感じがします。
- ・受験に必要な教科を選択できたことや、英語と数学のクラス分けがあったのが良かったと思う。
- ・多種多様に科目が選択出来ること。
- ・入学当初から卒業後について考えながら学ぶことができたこと。
- ・良き友ができたようです。コロナ禍で、授業風景や内容までは、正直こちらにあまり届きませんでしたが、同じ志の友が集まっていたので切磋琢磨できたのではと思います。
- ・進学校の勉強の仕方ではないように思います。
- ・普通科と比較して有意差を感じなかった。
- ・芸術コースですが、音楽の勉強をするには設備がとても整っていて、自宅だけでなく学校にいる間も練習ができたことです。

(オ) 進路希望状況



※令和4年3月卒業生実績 系列選択者数（進学者数）の主な分野別進路

【人文系列】293名（213名）法学、外国語、経済、経営、商学、教育、文学 等

【文理系列】187名（145名）医学、体育、法、政経、教育、文学、キャリアデザイン、現代心理 等

【理工系列】154名（92名）理工、理学、薬学、デザイン工学、情報科学、先進工学、総合数理、建築、教育 等

【芸術系列】29名（20名）芸術、音楽、美術、造形 等

イ 当該校への聴き取り(抜粋) ※令和4年3月実施

(ア) 「各系列」の目標や特色

- ・「進学を重視した総合学科」として、キャリア教育の充実や系統的な学習を可能とする総合学科の特色を取り入れ、自己の進路志望を深める学習を重視するとともに、各自の個性を生かした主体的な学習を推進し、進学を中心とした進路希望を実現することを目標としています。「人文」、「文理」、「理工」、「芸術」の4系列を設置し、国語・数学・英語を基盤となる教科と位置づけ、系列ごとで共通に履修する科目を設置するとともに、生徒が自己の特性や進路希望等に応じた履修計画を実現できるように、多様な講座を開設しています。

- ①人文系列は国語・地歴・公民・英語を中心に学び、人と文化・社会の仕組みを学びます。
- ②文理系列は文系教科に理科・数学の基礎教科をあわせて総合的に学びます。
- ③理工系列は数学・理科・英語を中心に学び、科学的なものの見方や考え方を学びます。
- ④芸術系列は、文系教科に専門教科を加え、音楽・美術・工芸・書道について深く学びます。

(イ) 学習への取組

- ・総合選択制の特色を生かした系列学習の充実を図っています。
- ・総合学科の系列を生かしたキャリア教育の推進をしています。
- ・4つの系列に沿った多様な科目の開設をしています。
- ・将来の進路実現や系列の目標を達成するための丁寧な履修指導を行っています。
- ・ICTを活用した教育の推進をしています。

(ウ) 総合学科設置の効果

- ・各方面から、「受検者（入学希望者）の多い高校。学校評価で『入学して良かった』と感じる生徒や保護者が多い高校。部活動と学習活動の両立した高校。地域との交流のある高校。」との評価をいただいている点が挙げられます。また、総合学科第1期生の進学状況は昨年度に比べ、より生徒の希望に沿った進学先となっていることも大きな成果と考えます。

(エ) 現在の課題

- ・生徒一人一人の希望に沿った生徒の時間割作成と教員の時間割作成、授業実施教室の配置、出席入力や成績処理、進路に関する事務処理のために莫大な時間と労力を要します。
- ・生徒の希望に沿った時間割作成に伴い、教員配置のためかなりの時間と労力を要します。
- ・生徒の進路希望を実現するため、より丁寧かつ効率的な教科指導や進路指導を要します。
- ・創立26年を迎えて、校内の随所に故障等が生じています。

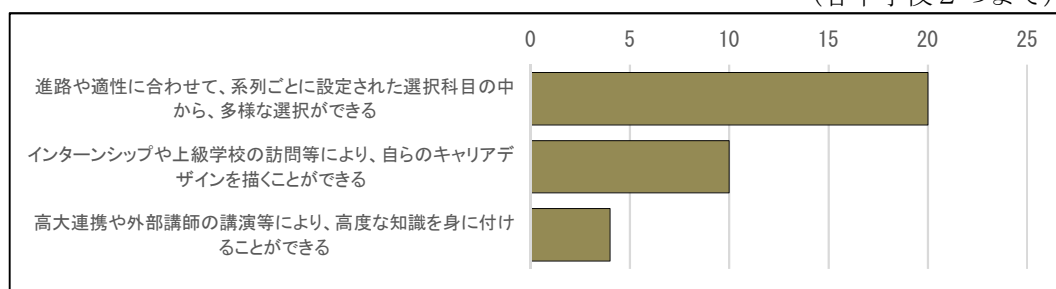
(オ) 近隣中学校の状況

- ・多くの中学生や保護者から、「行きたい学校・行かせたい学校」として高評価をいただいています。今後は、「どのような生徒が幕張総合高校での学びに向いているのか」や「総合学科の特徴や魅力」を更に積極的に発信して欲しいなどの意見をいただいています。

ウ 近隣中学校（21校）へのアンケート

(ア) 幕張総合高校（総合学科）の取組として、良いと思うものはどれですか

(各中学校2つまで)



(イ) 中学校からの意見（抜粋）

- ・どのような生徒が幕張総合高校に向いているのか（向いていないのか）もっとアピールしたほうが良い。
- ・総合学科の特徴や魅力が今一つ周知されていないように思います。生徒たちは総合学科で学びたいからという理由で幕張総合高校を志望しているわけではないように感じます。もっと特徴や魅力をわかりやすく伝えていただけるとありがたいです。
- ・2、3年次にある「興味・関心に応じた多様な学び」の一層の深化、向上
- ・独自の講座やカリキュラム
- ・出口を見据えた進路指導を充実させていく。並行して、総合学科ならではの生徒自らが興味・関心を持つ事柄について掘り下げて学習できる仕組みづくりを。
- ・充実した施設・設備を生かし、部活動にも力を入れ、文武両道できる学校であって欲しいと思います。
- ・大学との連携・協力体制の強化
- ・外部企業との連携、地域との連携
- ・民間の教育機関と連携するなどして、生徒の学習サポートを充実させてはどうかと思います。

4 社会のニーズに対応した教育

(1) 中高一貫教育校の設置

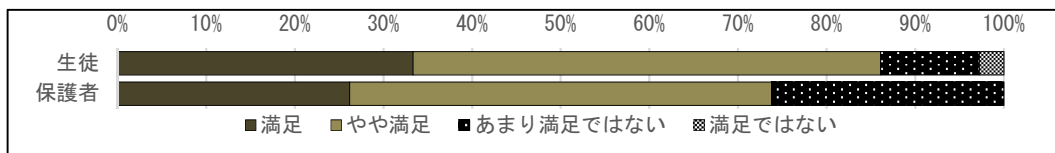
【東葛飾中学校・高校】

ア 生徒及び保護者アンケート調査

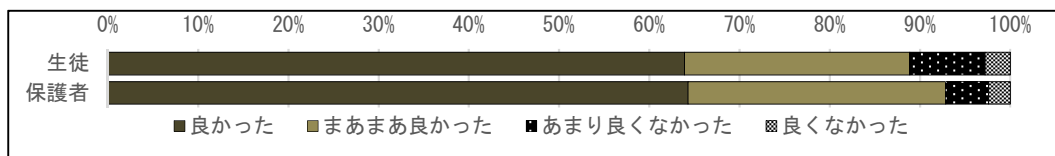
(ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和3年12月
- ・回答数 生徒36名（3年内進生）、保護者42名（3年内進生保護者）

(イ) 「中高一貫教育校」の授業内容に満足していますか。



(ウ) 「中高一貫教育校」で学んで良かったですか。



【(ウ)生徒の主な理由】

- ・ここでしか出会えないような仲間や先生方に出会えたこと、レベルの高い集団で切磋琢磨しあえて、他の学校にはできない経験ができたこと。
- ・中学校では様々な意見を持った人と関わりながら少人数で深い交流ができ、高校に入って外進生と関わることでさらに周りから良い刺激を受けることが出来てよかった。
- ・教科としての学問だけでなく、社会に出て人前で話せる力や、仲間と協力して一つの課題に取り組む能力も学ぶことが出来る学校だった。
- ・特に中学と高校の共同作業みたいなのが無かった。
- ・中高一貫校であることを意識したことはほとんどなく、地元の中学校で部活動などを積極的に行えば良かった。

【(ウ)保護者の主な理由】

- ・中学での学びはとても良い経験になった。一期生だったからこそ先生方と一緒に取り組み、学んだ実感があった。
- ・自分の考えをまとめ、わかりやすく発表する力、自分で考えて行動する力がついた。
- ・高校受験がないので、ゆとりをもって中学校生活をおくれたことが良かった。
- ・高校入学時のクラス編成が高校入学生と混ぜられたことで、中学で積み上げた勉強が前に進まず、もどかしかった。
- ・高校と中学の連携が少ないことは非常に残念に感じる。

(エ) 進路状況 ※令和4年3月卒業生実績

内進生（中学校から内部進学した生徒）

【大学進学】 61名 東京大、一橋大、筑波大、東京工業大、お茶の水女子大、早稲田大、慶應大、上智大 等
（うち医歯薬系2名）千葉大(薬)、東邦大(薬) ※医歯薬コース選択者は5名

【就職】 1名 公務員

【未定】 12名（進学準備）

外進生（高校から入学した生徒）

【大学進学】 191名 東京大、京都大、東北大、筑波大、東京工業大、北海道大、千葉大、早稲田大、慶應大 等
（うち医歯薬系5名）山梨大(医)、東邦大(薬)、東京理科大(薬)、日本大(薬)
※医歯薬コース選択者は11名

【専門学校】 1名 工業系専門学校

【就職】 1名 準大学

【その他・未定】 海外学校1名、（進学準備）43名

イ 当該校への聴き取り(抜粋) ※令和4年3月実施

(ア) 中高一貫教育校6年間の目標や特色

- ・高い知性と豊かな人間性を備えた次代のリーダー育成を目指し、自ら問いを立て発信できる探究心や他者と協働する力、進路を切り拓く力の育成

(イ) 東葛飾中学校の目標や特色

- ・「豊かな人間力」「揺るぎない学力」「自己規律力」を学びの柱に設定し、多様な学習プログラムや学校行事を通して、広い視野を備えた心豊かな人材の育成を目指している。授業に限らず、様々な教育活動の中で、話し合い活動や発表を重視しているのが特色である。

(ウ) 東葛飾高校の目標や特色

- ・自主自律の校是のもと、次代のリーダーの育成を目指し、医歯薬コースの設置、東葛リベラルアーツ講座、自由研究、三大祭の取組などを通して、キャリア教育・教養教育を充実させ、自ら学び自ら考える場を設けている。

(エ) 学習への取組

- ・授業に限らず様々な場面で3年間、インプット・シェア・アウトプットを繰り返すので、自分の意見を述べながらも他の価値観を認められる生徒に成長する。
- ・互いに学び合い、助け合い、主体的に授業を作っていく雰囲気が浸透している。
- ・学年生徒が80人から320人に増え、多くの仲間からの刺激を受け、多様な価値観に触れながら、習得した知識や技能の概念化を実現できるようになっている。
- ・全体的に知的好奇心が旺盛で、さまざまな場面でリーダーシップを発揮するとともに、自ら問いをもち仲間と協働して課題解決に取り組むことのできる生徒が多い。

(オ) 近隣小学校・中学校の状況

- ・志願者が増加しており、高い期待を得ていると考える。

(カ) 中高一貫教育校6年間の成果

- ・高校入試がないので知識の詰め込みではなく、考えることや共有すること、発表することに重きを置いた学習指導が展開できている。
- ・自分の考えをもち他者と共有することやプレゼンの発表力などが身に付いている。

(キ) 現在の課題

- ・中学生の運動能力が県の平均に比べて低い。
- ・中高が連携した授業や学校行事の充実

(ク) 今後の取組

- ・中学校では、今後、部活動を、体づくりや新しい種目等を体験する「クラブ」へ段階的に再編し、運動能力の向上を図る。
- ・6年間の継続した学びとなるよう、授業での連携を中心に更なる充実した取組を模索していく。

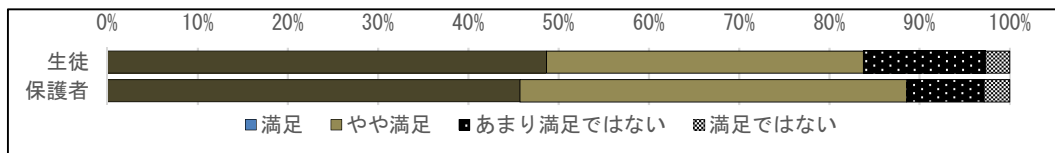
【千葉中学校・高校】

ア 生徒及び保護者アンケート調査

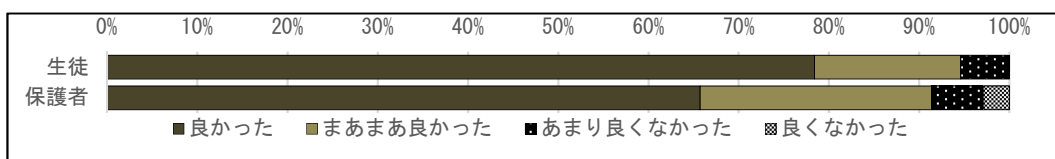
(ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和3年12月
- ・回答数 生徒37名（3年内進生）、保護者35名（3年内進生保護者）

(イ) 「中高一貫教育校」の授業内容に満足していますか。



(ロ) 「中高一貫教育校」で学んで良かったですか。



【(ウ) 生徒の主な理由】

- ・学習意欲の高い様々な友人ができ、切磋琢磨しあえた。
- ・中高ともに素晴らしい学びの場を与えてもらえて恵まれていると感じた。また、どの教科においても、千葉中の学びが確実に高校での学びのモチベーションになっているうえ、学習内容についても、千葉中での高度な学びが高校で授業についていくための手助けになっていた。
- ・高校受験がないので行事に全力で参加でき、自分が学びたいことや研究したいことを深く、じっくり追究できた。
- ・千葉中と千葉高の間で何においても連続性がなくて残念だった。

【(ロ) 保護者の主な理由】

- ・3年間ずつの学校生活に比べ、長いスパンで落ち着いて生活できた。
- ・授業内容については、大学受験に向けて改善すべき点が多いと思うが、自由な校風の中で、多彩な友人関係が何より財産になっていると思う。
- ・ゼミ等普通の中学校ではできない体験をさせてもらった。
- ・学習面において外進生と内進生の学力の差がかなりある点が残念だった。学習面の更なるフォローがあれば良かった。
- ・千葉中で学んできたことが高校で生かされず、授業の質なども含め、違う学校のようなだった。

(エ) 進路状況 ※令和4年3月卒業生実績

内進生（中学校から内部進学した生徒）

【大学進学】 63名 東京大、一橋大、東京外国語大、お茶の水女子大、東北大、筑波大、千葉大、東京工業大、早稲田大、慶応大 等

【未定】 15名（進学準備）

外進生（高校から入学した生徒）

【大学進学】 177名 東京大、京都大、一橋大、お茶の水女子大、東北大、筑波大、北海道大、東京工業大、東京医科歯科大、早稲田大、慶応大 等

【未定】 58名（進学準備）

イ 当該校への聴き取り(抜粋) ※令和4年3月実施

(ア) 中高一貫教育校6年間の目標や特色

- ・日本国内や世界で活躍する心豊かな次代のリーダーを育成することを目標としている。高い学力を身に付けさせるための教育課程と授業、並びにリーダーとしての人間力育成に特色がある。

(イ) 千葉中学校の目標や特色

- ・「千葉から、日本でそして世界で活躍する心豊かな次代のリーダーの育成」を目標とし、学校独自教科の設定や総合学習の充実を図りながら、校内外のボランティアや社会人育成講演会等の行事にも力を入れ、人間力育成に資す教育活動を工夫改善しながら実践している。

(ウ) 千葉高校の目標や特色

【目標】

1. 民主的國家の有為な形成者として必要な資質を得るため、社会に対する広く深い理解と健全な批判力および一般的教養を養成する。
2. 自主的精神に富み、かつ自他の敬愛と協力によって、文化の創造と発展に貢献する円滑にして豊かな個性を確立する。
3. 平和と人類の福祉に寄与し、真理と正義を愛して勤労と責任を重んじる実践力並びに健康な身体を育成する。

【特色】

1. 「重厚な教養主義」に基づくバランスのとれた教育課程と質の高い授業
2. 自主自律の精神を重視した教育実践

(エ) 学習への取組

- ・様々な教育活動を通じて、他者との関わりの中から、学びや経験を積み重ね、中学卒業時には心身ともに成長し、伝統ある千葉高等学校に入学している。高等学校では、学力検査を経て入学してくる級友と切磋琢磨し、互いに高めあいながら勉学に励んでいる。
- ・日々多くの教科の課題に取り組みながらも、自身の興味関心や疑問に思うことに対して、主体的に研究を行っている。何事にも積極的に学び取ろうとする姿勢がある。
- ・多様性に富んだ外進生との切磋琢磨を通じて、中学校で培った資質・能力に磨きをかけ、逞しさを備えていく。また、様々な価値観に触れることで柔軟性を身に付けるとともに、異なる考え方や意見を持つ集団におけるリーダーシップの在り方を学んでいく。
- ・プレゼンテーションやグループワークなどで内進生がリードする場面が多いが、学年進行とともに大きな差は見られなくなる。

(オ) 近隣小学校・中学校の状況

- ・多くの優れた人材を千葉高校に送り出しており、学習指導のレベルの高さが評価されている。

(カ) 中高一貫教育校6年間の成果

- ・千葉中学校の進学者(内進生)は高いプレゼンテーション力とディスカッション力など、バランスのとれた資質・能力を備えており、外進生にとって良い刺激となっている。また、中高一貫教育校だからこそできる中高の生徒間交流により、豊かな人間性の育成を図ることができている。

(キ) 現在の課題

- ・中高連携の授業の取組等、6年間の継続した学びの充実が課題

(ク) 今後の取組

- ・中高の合同教科部会や研究授業の機会を増すなど、授業改善に取り組む。
- ・中高合同授業の実施を含めた6年間の計画的な学びを模索する。

(2) 防災の学びの導入

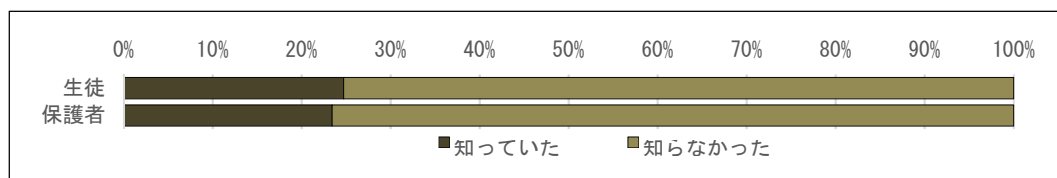
【市原八幡高校】

ア 生徒及び保護者アンケート調査

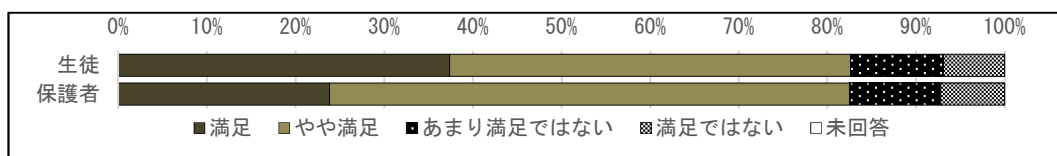
(ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和3年12月
- ・回答数 生徒174名(3年生)、保護者47名(3年生保護者)

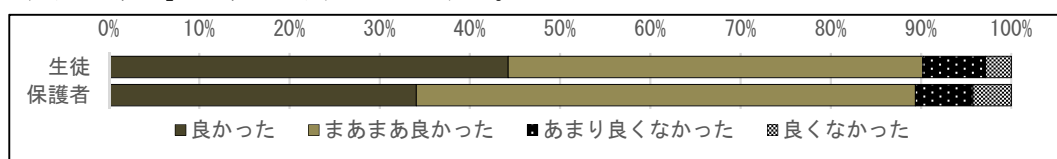
(イ) 受検前に「防災の学び」があることを知っていましたか。



(ウ) 「防災の学び」の授業内容に満足していますか。



(エ) 「防災の学び」を学んで良かったですか。



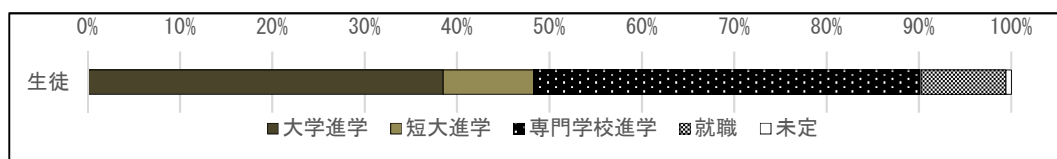
【(イ) 生徒の主な理由】

- ・自分の命や他人の命を守るための行動を学ぶことができた。
- ・災害発生時の避難の仕方、安全確保の方法、二次災害について学ぶことが出来て、災害時に身を守る正しい方法を知ることが出来た。
- ・他校にはない、日本に住む上で回避できない災害に対して必要な事柄を学べた。
- ・もう少し学びたかった。
- ・7限がきつかった。

【(ウ) 保護者の主な理由】

- ・避難経路などを学ぶことができたから。
- ・詳しく学ぶ機会はなかなか無いので、必須項目でやれるのはとても良い。
- ・防災について意識を持つ事ができたところ。
- ・普段あまり防災について考えないので良い機会になった。
- ・自然災害が起きた時の対処法などを学ぶことができた。
- ・他では学べない内容で、せっかくそのような機会があるので有れば有難いと思う。
- ・家族に防災の備えについて必要性を訴えていた。
- ・地震等、災害時について考える事が増えた。また、危機に対する意識が変わった。
- ・体験をもっと充実させてほしかったです。
- ・災害など多いので防災を学べるのはいいかとおもう。
- ・緊急避難時に、役に立った。
- ・子供と防災について話せたこと。
- ・心肺蘇生などの体験が出来た。
- ・聞いたところ、理解していませんでした。
- ・子供からも特に話がなくて子供にとっても魅力ではないと感じたから。

(オ) 進路希望状況



※令和4年3月卒業生実績

【大学進学】99名

東京電機大、神田外語大、日本大、武蔵野大、立正大、目白大、大妻女子大、桜美林大、二松學舎大、敬愛大、淑徳大、共立女子大、千葉工業大、千葉商科大、実践女子大、昭和女子大、帝京平成大、東京工芸大、和洋女子大、千葉経済大、京都芸術大 等

【短大進学】20名

千葉経済短大、千葉明德短大、戸板女子短大、日本歯科大学東京短大 等

【専門学校】87名

千葉市青葉看護専門、北原学院千葉歯科衛生専門、千葉医療センター附属千葉看護専門、千葉医療福祉専門、船橋情報ビジネス専門、大原専門、東京IT会計公務員専門 等

【就職】18名（うち公務員3名）

国家公務員一般職(国土交通省)、千葉県職員(学校事務)、市原市職員、トヨタカローラ千葉、市原市農業協同組合、杉孝、三井造船特機エンジニアリング、かどや製油、電洋社、山九、昭和電工マテリアルズ 等

イ 当該校への聴き取り(抜粋) ※令和4年3月実施

(ア) 「防災の学び」の目標や特色

- ・災害発生メカニズムや歴史及び地域の防災体制について学ぶことで、日頃から災害に対する備えを行うことの重要性を理解させるとともに、災害発生時には状況に応じた的確な判断により、自らの安全を守るだけでなく、地域の人々の安全確保に貢献できる実践的な態度の育成を図っています。

(イ) 学習への取組

- ・学校独自に作成したスライド資料を用いた、災害と防災に関する授業を展開しています。
- ・学びを受けて、自ら探究するテーマを設定し、調べ学習を行い、ポスターセッション方式で発表する場も設けており、学んだ内容を自らアウトプットする取組も始めています。

(ウ) 防災の学び導入の成果

- ・生徒からは身を守る方法を身に付けることができたとの意見が多くありました。
- ・保護者からは、生徒が学んだ内容を家庭で共有することで学ぶことができたとの意見がありました。

(エ) 現在の課題

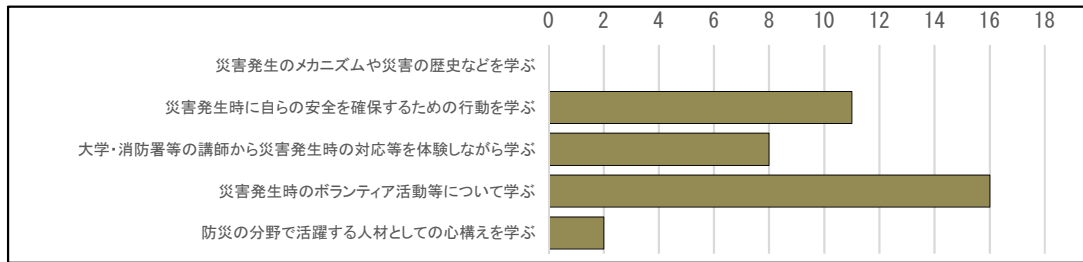
- ・教材、教える体制の整備が進んだため、生徒に学んだことをアウトプットする取組を拡充していく必要があります。
- ・コロナ禍により、外部との連携、実習を十分に実施することが困難でした。

(オ) 近隣中学校の状況

- ・「防災の学び」の成果を身に付けた生徒に対する期待は大きいです。
- ・今後は、市原八幡高校での「防災の学び」にて行っていることを積極的に発信、紹介する取組を推進していく必要があります。

ウ 近隣中学校（20校）へのアンケート

(ア) 防災の学びの取組として、良いと思うものはどれですか(各中学校2つまで)



(イ) 中学校からの意見(抜粋)

- ・市原八幡高校で「防災の学び」を行っていることを知っている地元の中学生や中学校教頭は少ないと思う。情報発信をもっと積極的に行ってもよいと考える。このことが更に地域が防災について考える機会にもつながると思う。地元の中では一番の人気校なので、地域新聞等で積極的にアピールしてほしい。
- ・南海トラフ地震や関東直下が予測される状況を考えれば、「防災の学び」は多くの生徒に身につけてほしいところであり、県消防学校・防災研修センターが近隣にある市原八幡高校としては、大変効果的な学習であると思います。より具体的な活動が紹介されると中学校として生徒に説明しやすくなると思います。
- ・高校生がそれぞれの地域での防災で大きな力になるはず。知識や体験が大切だと思います。こうした生徒が増えることを期待します。
- ・「防災の学び」で高校生がインプットしたものをアウトプットできる場を作れるとよい（他校生徒、中学生など）情報発信につながる。市原地区の核となるべく、進路、文化、スポーツでの実績を残す。
- ・市原八幡高校の生徒が市内の中学校に出向き、中学生に出前講座等を行うと、より身近に感じられるのではないかと思います。

5 全日制高校の配置

(1) 統合

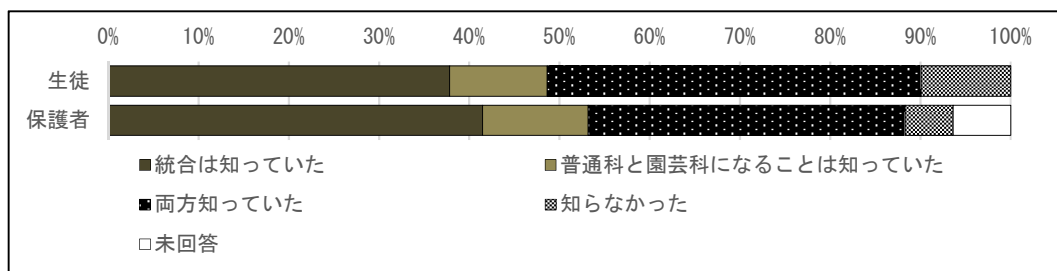
【市原高校】

ア 生徒及び保護者アンケート調査

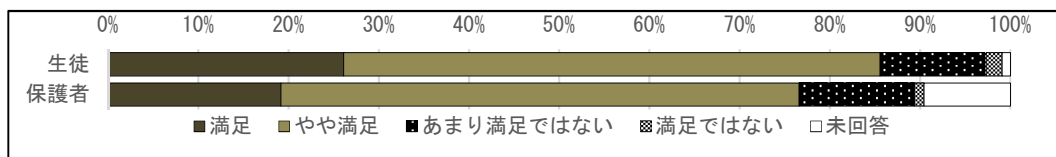
(ア) アンケートの実施

- ・実施時期 令和3年12月
- ・回答数 生徒111名（3年生）、保護者94名（3年生保護者）

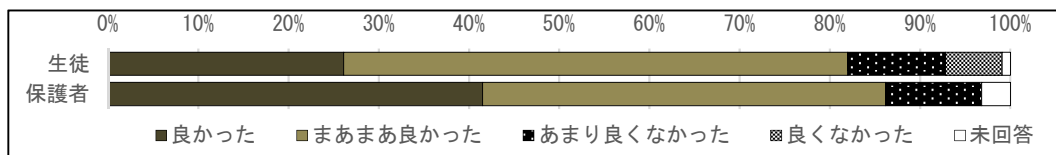
(イ) 受検前に市原高校が旧市原高校・鶴舞桜が丘高校の2校が統合し、普通科と園芸科になることを知っていましたか。



(ウ) 市原高校の授業内容に満足していますか。



(エ) 市原高校で学んで良かったですか。



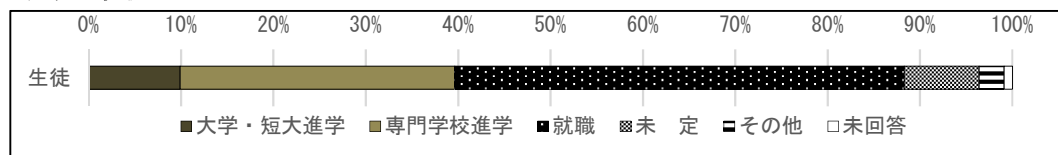
【(エ)生徒の主な理由】

- ・仲の良い友人ができたから
- ・自分の学力に見合い、部活動で己を研ぐことができたから
- ・普通の高校では学べない園芸の事が学べるから。
- ・勉強だけでなく色々なことが学べたから。

【(エ)保護者の主な理由】

- ・友人にも恵まれ、素敵な先生が多い。勉強についていけないこともなかったので安心できた。
- ・行きたくないと言ったことが無かったから。
- ・先生方が親身になってくださりとても信頼できました。学ぶ事への興味や、将来への期待が膨らんだようです。ありがとうございました。
- ・家からは少し遠く、自転車通学で大変だった面は除き、本人はとても楽しく学校生活を送っていたと思います。友達も沢山出来て、充実していたと思います。先生とも良く、コミュニケーションをとれていた様です。
- ・中学では何事にも無気力で何もできなかったが、市原高校に入学してから、色々な事に積極的に取り組んで来て、楽しそうにしていた。
- ・園芸科で草花に関する知識や技術の習得が出来た。部活動、授業（園芸科以外でも）が充実していた。先生方や友人とのコミュニケーションが良好で高校生活を楽しく過ごすことが出来た。
- ・市原高校に通い、とても生活面に対し安心しました。
- ・園芸科でしか学べない事を体験できた事です。
- ・子供が毎日休まず登校する事が、一番うれしい事です。中学校では遅刻が多かったため。
- ・学力があっていたのと、服装などしっかり指導くださったこと。

(オ) 進路希望状況



※令和4年3月卒業生分野別実績（普通科及び園芸科合計）

【大学・短大進学】11名 経済（2名）、栄養、福祉 等

【専門学校】32名 保育（3名）、看護（3名）、美容（2名）、福祉、製菓 等

【就職】56名 製造（6名）、事務（3名）、ゴルフ場、調理師、接客、販売 等

【その他】12名 声優養成所、未定

イ 当該校への聴き取り(抜粋) ※令和4年3月実施

(ア) 統合校の目標や特色

- ・学校は地域と連携して、将来地域で活躍し、地域に貢献できる人間を育てる。
- ・生徒自らが、未来を拓く主体であるために、規範意識の醸成と社会性の涵養に努める。

(イ) 学習への取組

- ・普通科に商業コースと福祉コースを設置し、進学希望クラスを設ける。
- ・総合的な探究の時間に「市原地域探究」を行う。

(ウ) 統合の成果

- ・生徒の高校生活全般について、様々な方針を決めていったことにより、職員からは、わかる授業の実践、個々の生徒の実態を踏まえた根気強い生徒指導、ミスマッチのない進路指導などを職員一丸となって取り組み、職員の学校評価が年々数値を上げている。また、学校の指導方針が徐々に生徒に浸透することとなり、生徒の学校評価も高い数値となってきた。

(エ) 現在の課題

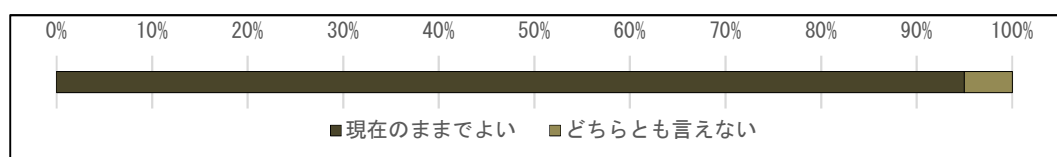
- ・ホームページの更新は統合前より積極的に行っている。今後は学校の活動を、保護者を含めた多くの人に知ってもらい、本校の良さを理解してもらうことが課題である。

(オ) 近隣中学校の状況

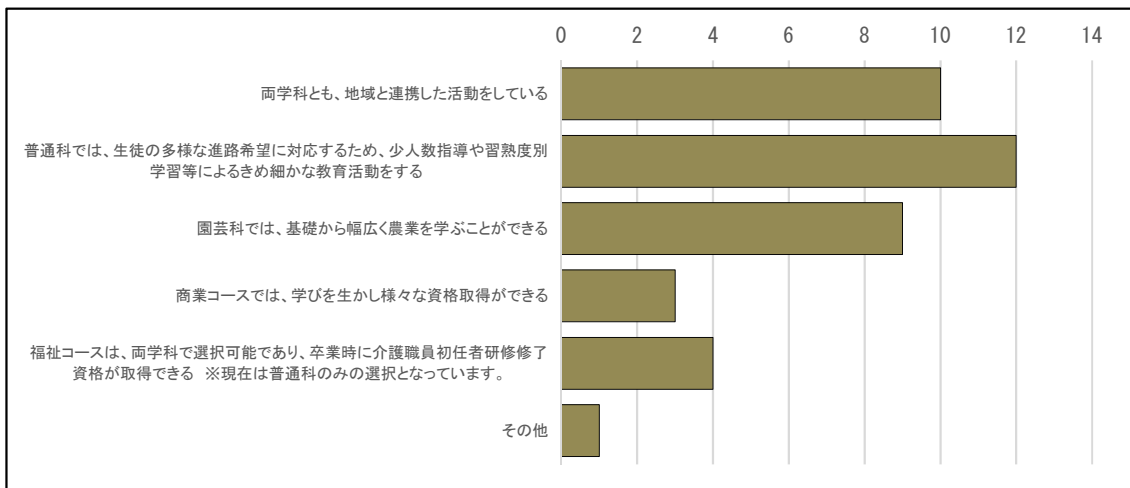
- ・教育目標が明確となり、年を追うごとにその目標達成のための具体的な教育活動が展開されてきている。

ウ 近隣中学校（20校）へのアンケート

(ア) 統合について



(イ) 市原高校の取組として、良いと思うものはどれですか（各中学校2つまで）



(イ) 中学校からの意見（抜粋）

- ・生徒数の確保の観点など、適正な統合だと思います
- ・現状をふまえると統合はやむを得ないと考えるが、両校の特色や長所が相殺されてしまう気がする。
- ・きめ細かいご指導について、大変有難く感じています。どの教科も学ぶ生徒にとっては、大変魅力のある存在です。特に、指導者側からは、その魅力を生徒に伝えきれず、残念に思っていますので、広報のアイデアを豊富に集め、周知の方法が多岐に渡ることを願います。
- ・市内の生徒が多く在籍している事から、将来的に市原市を支え、さらに魅力を発信できる人材の育成に期待しています。

6 外部関係団体の意見

(1) 意見聴取先

ア 全般的に聴取する団体（7団体）

- 千葉県高等学校長協会
- 千葉県中学校長会
- 我孫子市教育委員会
- 市川市教育委員会
- 市原市教育委員会
- 柏市教育委員会
- 千葉市教育委員会

イ 学科、コース等について聴取する団体（23団体、うち5団体（市教育委員会）は全般的にも聴取）

（保育基礎コースの設置）

- 江戸川学園おおたかの森専門学校
- 東京教育専門学校
- わたぐも保育園
- 市川市教育委員会

（福祉コースの設置）

- 我孫子市社会福祉協議会
- 社会福祉法人アコモード 特別養護老人ホームアコモード
- 我孫子市教育委員会

（総合学科の設置）

- 千葉市立打瀬小学校
- ホテルスプリングス幕張
- 千葉市教育委員会

（中高一貫教育校の設置：東葛飾中学校・高校）

- 株式会社 教育と探求社
- 国際医療福祉大学医学部
- 柏市教育委員会

（中高一貫教育校の設置：千葉中学校・高校）

- 社会福祉法人オリーブの樹 オリーブ亥鼻福祉作業所
- 千葉高校同窓会
- 千葉大学医学部
- 千葉市教育委員会

（防災の学びの導入）

- 市原市立八幡東中学校
- 千葉県消防学校
- 千葉県防災危機管理部危機管理政策課
- 市原市教育委員会

（統合）

- 小湊鐵道株式会社
- 社会福祉法人加茂つくし会 特別養護老人ホーム高滝神明の星
- 有限会社 深山文具店
- 市原市教育委員会

(2) 主な意見

ア 保育基礎コースの設置（市川南高校）についての意見

- ・快活で、高い目的意識を持ち学ばれている印象がある。クラスの中で同じ目標を持った生徒たちということもあり、調和が取れていて良い雰囲気であった。
- ・希望する生徒が溢れてしまう点は勿体ない部分もある。市川南高校の卒業生で本校に入学した生徒の中に、1年生から保育基礎コースに希望していたが入れずに、本校の保育科に入学した生徒がいる。人数を増やすことも考えられるが、現段階の人数が先生方の細やかな指導が行き届く人数として良いかと思う。また、連携先として、私たちが保育基礎コースの全体像が見えていないということがある。HP等で教育課程は確認できるが、学校として保育人材をどう育てていくという全体的な流れと、この部分が必要だから依頼したいという相談があれば、保育専門学校としてのアドバイスや他の連携方法等も考えられるのではないかと思う。
- ・介護分野もだが、家庭等の身近な体験から将来の進路につながりやすいことがある。高校生のうちからコースに分かれて体験していくことで、自分に向いているのか、向いていないのかを早い段階で判断することができる。また、本校生徒の中にはピアノ経験なしで入学してくる生徒もいる。その点、保育基礎コースの生徒は、保育関係の経験を高校で実施しているのが有利である。
- ・東京都への人材流出で保育士不足が深刻な地域でもあるため、地元根差した保育・幼児教育者を目指す方が増えるきっかけとなればと思う。卒業生が社会人となり市川市の「いちかわ手当」等の広報にも登場するようになると、より周知が可能になるのではないかと思う。地元で高校から上級学校、就職先等の社会人までのキャリアデザインができるようになると、地元の小中学生への広報につながるのではないかと考える。
- ・資格があると就職に直結し、選択肢も広がる。保育学科でも卒業前の2月に介護の初任者研修の資格が取れるよう学校で斡旋している。卒業生の3割が保育施設でなく養護施設に就職している現状もあり、需要は高い。
- ・卒業生からは事前に保育の勉強を行うことで余裕が持てて良かったという声が聞かれた。検定を取って自信が持てた、同じような内容を専門学校で学ぶので余裕が持てたとのこと。
- ・検定での成果では、専門学校に入ってピアノはスムーズに進めることができたし、折り紙も役に立っている。コースの学びは、家庭科の先生がおもに指導しているが、高校に行った際に、先生と生徒との関係性がとても良いと感じた。
- ・学校内にコース専用の絵本や児童文学、紙芝居、専門書などのコーナーが設置されて、蔵書が増えてくるのがいいのではないかと思う。
- ・「保育とは何か」という保育原理的な押さえをしていた方が良いのではないか。かわいい、楽しいというふわふわした気持ちだけでなく、命を預かる仕事なので、保育の原理的な基本的な部分、「保育者はどんな仕事であるのか」、「幼稚園と保育園の違いは」、「幼児教育をめぐる世の中の動き」など、基本的なところを押さえたとの技術があると良いと思う。検定を受けるから、絵本を読み聞かせをする、という検定が目的にならないようになってもらいたい。「絵本、紙芝居はおもしろいよ」とか、「子どもたちはこんなに喜んでくれるんだよ」とか、検定の先まで続くと良い。そこでの学びを次の学校で開花されるように繋がりや広がりがあると良いと思う。
- ・科とコースの違いがわからないが、保育のカリキュラムが少ないように感じる。もっと国家資格試験科目の授業を行い、高校卒業後、上級学校に進学しなくても実務経験があれば国家試験を受けて国家資格として保育士を取得できることを伝えるべきではないか。
- ・保育基礎コースを設置したからには、コース選択者は、もれなく養成校へ進学できる環境を整えるべきではないか。特典があると良い。

- ・進路状況を見ると、保育の進路に進む生徒が多く、高校での学びが進路選択につながっていることは良いことである。また、生徒アンケートにある、「自分にはこの進路選択が向いていないとわかった」という生徒がいることはよい。早い段階で色々挑戦し、自分の進路を絞っていきける。
- ・市川南高校の保育基礎コースで学んだ生徒が今後、地元の保育園等に就職し、保育士等として、市川南高校にゲストティーチャーとして、母校に学びを還元することで、好循環が生まれるようになると、コース設置が軌道に乗るのではないかと。長いスパンで評価が必要である。
- ・2年次のコース選択時に選抜があり、希望者がコースから漏れるのはどうか。生徒や保護者の立場では、高校選択時にネックになる。また、コロナ禍で外部連携先における体験学習ができなかったのは、残念である。一方、保育に関する検定試験に挑戦し、合格者を出したのは成果である。

イ 福祉コースの設置（我孫子東高校）についての意見

- ・1年目と2年目では生徒のカラーが違った。1年間学んで、経験を積めば、意識が高くなっている。3年生は進路を見据えて、積極的に授業を受けようとする姿勢が見られた。
- ・実習について時間を気にせず、のんびりとやっていた。仕事に就いたら時間の管理も仕事の内であると生徒に伝えている。
- ・講師について、地元の人材を使った方が地元と交流ができて良い。
- ・地元の福祉の高校と協力していくことは良いことだと思う。リモートが利かない職種なので、地元の福祉が地元の中で回っていくことが理想である。
- ・福祉コースの満足度が80%以上と高いことに、やっけて良かったと感じた。
- ・近隣の高校ということもあり、卒業生も送っていただいた。先生方も熱意を持って指導されており、初任者研修取得は生徒さんにとっても大きな自信となっているようである。資格を取得できるのは大きい。
- ・積極的に質問してくる生徒と授業中、居眠りしてしまう生徒がいるなど、授業態度に個人差があった。
- ・コース設置により、介護の現場の声を生かしてもらいながら、実習などができたことは良かった。コースの学びにより得た介護に関する基礎知識があった方が良いが、授業と現場では多少異なる部分はある。学科設置校とコース設置校とでは、指導に温度差があると思う。国家資格の取得については、就職後、熱意とやる気により3年で果たすことができる。高校では、授業を通じて介護の魅力を伝えてほしい。
- ・高校生は将来のことで悩む時期である。職業の選択肢の一つとして福祉の仕事を示すことは意味がある。
- ・我孫子東高校の福祉コースでは、資料から資格取得が進路実績に結び付いていることが分かる。
- ・介護職の待遇等も丁寧に説明しているという記述もあったので、そこは大事なところかと思う。これから福祉の需要もどんどん高まっていくことと思う。
- ・福祉コースに入りたいという生徒がいる。とくに布佐地区は年配の方が多い地域であり、家族の在り方を考えている生徒がいて感心する。
- ・先生方から丁寧に指導をいただいている。また、休みがちな生徒にもフォローしていただいていると聞いている。
- ・流山北高校を考えていた生徒も、福祉コースのある我孫子東高校も選択肢として上がってきた。そもそもアクティブスクールを理解することが保護者を含めて難しい。
- ・コロナも落ち着いてきたので、対外活動として小中学校にアピール、交流する場を増やしていけば、もっと周知されるのではないかと。福祉コースを希望する生徒が半分も取れない

と聞いている。希望する生徒に応じてもらえるとうりがある。

- ・中学生の保護者や家族にも広がるように、積極的にコースの活動を伝えてほしい。また、中学校現場と高校がもっと繋がることを期待したい。

ウ 総合学科の設置（幕張総合高校）についての意見

- ・幕張総合高校のクッキング同好会と美術部がホテルスプリングス幕張と連携した取組は、非常に素晴らしいと思う。また、本校の教務主任が1年次対象のキャリアセミナーに講師として出席し、教員としての仕事のやりがいを伝えた。こうしたセミナーが生徒の学びを深める機会となればよいと思う。
- ・幅広い選択科目の中から、自身の進路希望に応じて履修科目を選べることはよい。
- ・イベントに参加した生徒や講演時の生徒の様子も大変真面目で良い印象であった。
- ・幕張総合高校の取組は良いと思う。興味のある科目を多くの選択科目から選んで取り組むことは良いことであり、多くの選択科目でその都度、人間関係が変わるので、人間関係づくりも多様化して良いと思った。そこから自分自身が見えてくる。
- ・総合学科になって何が変わったか教員もわかっていない。具体的に何をするのか、もう少しアナウンスがあるべきと思う。
- ・目的が明確な生徒には学びの多い学校だと思います。一方で、生徒数が多いため、目的等が不安定な生徒への支援には工夫が求められる。多様な選択科目が開設されていて、個別最適化に対応している点が魅力的である。
- ・総合学科というよりは、運動部で生徒を集めている印象がある。
- ・運動部活動だけでなく、探究活動での各種大会参加が増えると更に良い。

エ 中高一貫教育校の設置（東葛飾中学校・高校、千葉中学校・高校）についての意見

【共通】

- ・中高の連携ができていないという意見があった。外からはわからないところである。中学校からすれば、高校からの入学となるので、内進生との差は気になる場所である。中学校で学んだことが高校で活かされるのか、外から入ってきた生徒とのマッチングがどうなるのかが気になる。

【東葛飾中学校・高校】

- ・学力の高い生徒はどこかに正解を探そうとしたり、既成概念にとらわれたりする傾向があるが、東葛飾の生徒は、正解がないことを純粋に楽しんで感じる。今、大事にされている力である創造性やレジリエンスが如何なく発揮されている。
- ・受験を意識せずに探究に没頭できるという環境が大きい。
- ・他校の一貫校では中高の先生が異なる場所が多いが、東葛飾では中高の職員で交流されており、中高一貫校という意識が進んでいると思う。中高6年間でどのような学びをしていくかを全体で考えられた方がもう少し良いのではないかとと思う。
- ・高校は学力を高めるところを重視し、中学は学力とともに探究をも重視していくところであって、知らないことを知らない悔しさを探究学習で感じることを大事で、その楽しさや悔しさを学力が上がるという、連鎖が起これば良いと思う。
- ・高校の「自由研究」で、中高の探究学習がどう生かされていくかが楽しみである。「探究の眼鏡」という言い方をしているが、今まで普通に見ていたものが、違う見え方をするというのが、探究学習の面白さだと思う。中学校と高校1年で取り組んだ探究学習が、高校2年、3年になったときにどう変わって行くかが楽しみであり、期待することである。
- ・探究の位置付けがしっかりとされており、学習が生かされていると思う。探究をやるのが目的となってしまう学校もあるが、先生方が同じ方向を向いていて、探究を活用して生徒も楽しんでいるという循環が東葛飾ではできている。成果が早く出ていると思う。

- ・教授陣からは、医歯薬コースの研究発表会に参加した際、発表内容が高校生とは思えない素晴らしい内容であり、プレゼンテーションもわかりやすかったと話していた。先生方のバックアップも大変ではないか。
- ・生徒が生き活きとしている。社会の問題を考え、目的意識を持って行動している。教授からは、本学の1年生に見させて、同じように研究発表をやらせたいと聞いた。
- ・東葛飾高校の生徒に限らず、ゴールは何かを考えてほしい。医療だけでも職種は多くあり、職業研究が必要であると感じている。理学療法士と作業療法士の違いを答えられる高校生は少ない。進みたい分野の職業については、徹底的に調べることが必要である。
- ・将来、医療系で活躍する生徒が増えてほしい。

【千葉中学校・高校】

- ・中学生は、何事にも動じず、堂々としている。自信が溢れているような雰囲気がある。論理的であり、言いたいことははっきり言える。行動もはっきりしている。感性が豊かである。高校生は、主に合唱部の生徒だが、礼儀正しく、きちんとコミュニケーションが取れる。夢はあるかという質問にきちんと答えられていた。
- ・6年間あるので、目的があり、継続的なことをやりたい生徒には大変良い。受験勉強がない分、時間がある。
- ・中学3年間を過ごした後の高校選びも重要と考える。高校受験を経験しないことで思春期の挫折などが経験できないのではないか。
- ・中学生生活を受験に向けてではなく過ごすことができる。長い期間で将来を考えられることで、創造性を広く持てたらよい。
- ・同窓会などで中学から入った卒業生と話す機会が多いが、優秀な人材を輩出していると感じる。特にプレゼンテーションがうまくなっていると思う。
- ・ゼミや千葉高ノーベル賞の取組など、主体的な学びの機会を提供しているのは良い点だと思う。
- ・公立高校では先取りをやっていないが、やるべきではないか。高校1年生は別クラスでも良いから、先に進めるべき。都立は併設型を全て募集停止にしている。トップ校として他と異なる特徴を出すべき。
- ・満足度が高めに外出しているのは良いが、次に入ってくる生徒のことを考えると、進路実績の結果にもっとこだわるべきではないか。
- ・千葉高校は県内トップ校であるが、「千葉のリーダー像」が見えてこない。
- ・卒業生が県内各地の企業で活躍している。企業との提携をもっと増やすべきではないか。
- ・「重厚な教養主義」を捨てないでほしいが、「教養とは何か」をしっかり議論してほしいし、その痕跡をアウトプットしてほしい。
- ・千葉中学校では男女同数の定員となっているが、その分、女性リーダーの輩出に期待したい。
- ・社会で活躍する卒業生が数多くいる。同窓会の人的資源の一層の活用をしてほしい。
- ・中高一貫校は受験がない中学校生活を過ごせるので、時間を有効に活用できてよい。
- ・授業は実験を行い、その実験内容について議論し、発表している。非常に盛り上がる。生徒が積極的で、好印象である。超音波検査やアルコールパッチテスト、カフェイン接種後のクレペリン試験など実施し、結果について考察している。臨床検査を受ける前の同意説明なども倫理的な観点から教えている。集中力が大変素晴らしい。
- ・理科の先生方も工夫しているし、生徒も伸び伸びと学んでいる点は良い。他の中学校ではやらないところを伸ばしてほしい。研究もリーダーが必要でチームワークは不可欠である。リーダーを育ててほしい。
- ・千葉中の入学時は優秀な生徒が集まっているが、高校進学時には様々な学力水準の生徒がいるように思える。

- ・ゼミやリテラシーなど、探究活動を進めるうえで基礎となる力を育てている点は、他校の模範だと思う。
- ・一人一人に丁寧に寄り添っていない印象がある。素晴らしい先生もいるが、生徒が要求する水準に合致していない先生もいるようで、不満の声も聞こえる。
- ・課題解決力のうち、生徒会活動等の機会を利用して、社会を変革していく力を養ってほしい。

オ 防災の学びの導入（市原八幡高校）についての意見

- ・消防試験といった防災関係人材育成に特化したコースがあっても良い。
- ・地震や台風が多くいつどうなるかわからない中、いざというときに行動できるスキルを身に付けた人材を育成していることは、とても頼もしい。
- ・インプットは充実していると思うが、それをアウトプットできていないのが残念。市原八幡高校で防災を学んでいることを、地域のほとんどの人達は知らない。アウトプットすることで更に学びが深まると思うので、自分たちだけに留まらず、地域や中学生に情報を広げて行って欲しい。
- ・アウトプットできる機会を作って、積極的に取り組んでほしい。
- ・防災の学びに関しては、どこの学校でもやるべきだと思う。地震が頻繁にあり、台風も多い中、教職員も含めて、みんなが学んでいかないといけないと認識している。
- ・近隣ということもあり、普段から訓練の様子を間近で見ているせいか、熱心に取り組んでくれている。普段の行動を見ていると、礼儀正しい生徒が多い。
- ・良い点は、いざというときに「知っている」「やったことがある」というのは大変有益である。改善点は、研修の実施時期が7月中旬であるため、暑さ対策に気を使うことである。また、生徒の集中力が切れてしまうことも気にかかる。
- ・何か起きた時に地域で助け合う「自主防災組織」の普及を目指している。被災後3日間くらいは公助が機能しないため、自分たちで何とかしないといけない。そういう時に生かせるよう、今後も自主的に様々な講習を受講したり、機会があれば実技研修に参加したりするなど、学びを継続して行って欲しい。
- ・防災について、毎週授業があることは知らなかった。理解がより深まって良いと思う。
- ・内容をよく理解して熱心に取り組んでくれているようなので、この経験を今後を生かして欲しい。
- ・受講者アンケートからは、好意的な意見が多くあり、良かった。一方、研修の実施時期が7月であるため暑さで厳しいという意見もあった。
- ・防災研修センターでの研修や学校の授業だけに留まらず、いろいろな学びを重ねてもらえると、理解がより深まると思うので期待したい。
- ・事前に知らなかったという生徒が多いということなので、事前のアナウンス、発信が必要。東日本大震災があってクローズアップされているところだが、時間と共に風化しつつあるので、そういった意味でもアナウンスが大事なところである。
- ・防災に限らなければ、市立八幡東中と連携しており、高校の先生が授業をしてくれる授業体験などを実施している。高校生が避難所運営ゲームの授業を中学生にしてくれたら嬉しい。
- ・いつ、どこで災害が起こるかわからない現代に、若いうちに防災を学ぶことは重要である。彼らがいざというときにリーダーシップを発揮してくれるのではと期待している。
- ・「学校の隣に消防学校がある」という他に防災の学びの意義付けが見えにくいように感じる。
- ・市内の県立高校の中では市原八幡は人気のある学校だ。しかし、人気の理由として「防災」を挙げる人は少ない。そこをよりPRできればよい。

- ・地域の小中学校内の防災の教育や研修に市原八幡の先生や生徒が来て講師をしてくれたら良いと思う。

カ 全日制高校の適正規模（統合）（市原高校）についての意見

- ・市原高校の福祉コースの選択者は優しく、大人しい生徒が多い。介護の仕事は、人との関係づくりが大切であるので、高校生活の中で様々な体験をしてほしい。採用してきた卒業生は一生懸命、仕事に励んでいる。
- ・統合により普通科に加えて、商業、福祉、園芸、緑地管理などカリキュラムが豊富になったが、専門的な学びを進路に生かし切れていない。それぞれの学びを生かして地元就職し、地域に貢献してほしい。そのためには、高校時代に地域の良さを理解するような教育をしてほしい。
- ・いろいろなコースがあってもよくわからない。それだけ外に伝わっていないということ。地域の人にはたぶんもっとわからない。農業の学びも本当に農業を学びたくて入学してきた生徒ではないので、先生方の思いとのギャップがあるだろう。
- ・市原高校の生徒もいろいろな場面で、生徒主体で積極的に地域と関わりをもってくれればと思う。
- ・定員割れが続いていることから、今後、市原高校はやっていけるのか不安である。スポーツなど特色ある学校を作っていないと生徒が集まらないのではないかな。
- ・大学進学のためのクラスであるとか、部活動であるとか、特色ある学校づくりをお願いしたい。
- ・地元の人にも助けてもらいながら、元気をもらっている。学校がなくなってしまうと、鉄道もダメになってしまう。
- ・中学校ではゴルフをするために移住して学んでいる生徒がいる。地元の子が地元校に進学する流れができると良いと思う。
- ・素直で穏やかな生徒が多い。学校がしっかりと面倒を見てくれるので安心している。この傾向は鶴舞桜が丘高校時代からあった。統合の後もこの良さを引き継いでくれている。
- ・栽培した草花の販売などで、自分の成果が売れる瞬間を目で見ることができれば自己肯定感にも繋がるだろう。
- ・中学校の進路担当教員からも交通の利便性、交通費がネックであると意見が出ている。交通費の補助があればと思うことがある。
- ・市としては高校卒業後も地元の人材として残ってほしい。職業を絡めた連携ができれば地元人材輩出にも効果があるのではないかな。就職というゴールが見えるような学科やコースがあると良い。

キ 再編全般についての意見

- ・良い点は、プランに基づきそれぞれの学校で数年間準備をして、校内や校外とのつながりを重ねて、計画通りではない部分もあるが、始まってみると入学した生徒は目的を理解しながらその環境下でよく頑張っている様子が見える。
- ・改善点は、学校の経営者としては、再編前は準備委員会等を立ち上げ、時間をかけて準備をしている様子があるが、再編校の様子を見てみると、作って終わりになっているのではないかな。作った後に各学校で課題が見えてくるので、作って終わりではなく、課題を克服するためのフォローが必要である。行政においても政策課のみではなく、関係各課協力し、担当を決め、バックアップ体制を整えてほしい。
- ・各高校は努力し、相応の結果報告がなされると思いますが、本当にその再編が必要だったのか、客観的に評価する必要がある。

- ・中高一貫教育に対する県民のニーズは高いと思われる。2校の施設は2クラス規模を前提としているので、併設型中高一貫校のほか、他に、中等教育学校を2校程度開設してみたいかがか。
- ・高校においても、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して中教審答申を具現化する取組として、ICTや学校図書館の活用を踏まえ、積極的に推進されることを期待したい。これからの教師は、ファシリテーターとしての役割が求められるのではないだろうか。
- ・これまでは将来が決まっていなければ取りあえず高校の普通科に入って、大学で職業を考えていくという方向であった。今は、キャリア教育という視点から、具体的に高校に入ってからの内容が見えていると、生徒にとって高校選択の材料となるし、教員も進路指導がやりやすい。これまでは、進学指導にベクトルが向いていたので、いろいろなコースがあることは中学校の教員にとってもありがたい。受検する前に中身が見えていると高校選びの基準が変わってくる。
- ・中学校の3年生の先生が高校の事を知らない。高校の事を具体的に知らない先生が増えている。高校の授業を見せてほしいと高校側に言っている。子どもたちの様子を知るには授業風景を見ることが一番と思っている。
- ・他学区に比べると高校の数が少なく、選択肢が少ない。千葉市に行く子も多い。県南部の格差を何とかできるような再編を望む。
- ・市原市内でみると、進学志向の学校が弱いように感じる。多様な進路に対応できるように地区ごとに進学志向、就職志向、両方の学校があると良い。
- ・八幡東中は今年度末で八幡中と統合するが、市内公立中で初めての統合となる。一昨年は小学校でも統合を行った。これに高校の統合も重なると、「小・中・高全てなくなってしまう地域」と認識されてしまうのではないかと危惧している。
- ・コロナや社会情勢とかを考えると、保育や福祉などの学びを増やしていってもらえれば、人が多少集まるのではないかと思う。
- ・特色を持って学校が取り組んでいること、その中で熱意をもって学んでいる生徒がいるということは素晴らしいと感じる。小中学生やその保護者にも理解してもらい、選択肢が多くあるということを知ってもらいたい。
- ・コースに分けて学ぶことは、生徒に負担がなければ良いことだと思う。15、16歳で自分の進路を決めることになるが、負担でなければ、自分が決めた道を邁進していくことは良いことだと思う。
- ・一過性と、受験のためだけに陥らないように注意すべきである。その場限りでなく、継続的な学びができると良い。
- ・コロナ禍でICTなど私立の早い対応を見て私立に流れている傾向もあった。私立を受けて早めに決めたいという生徒もいた。生徒の考え方も多様化しており、公立にはない、特進や情報系のコースに魅力を感じている生徒も多い。
- ・不足する人材育成を図るコースの設置により、一人でも多く就労に結び付くと良い。
- ・中高一貫教育校など成績を伸ばしていく学校と、福祉や保育、教員のコースで人材を育てていくという二極化している印象を受けた。
- ・資格が高校段階で取れば、次の資格へと繋げられる。高校で資格が取れることは、自分のスキルアップに繋がるよい取組だと思う。
- ・医療や保育など、大学や専門学校まで行かなければ学べなかったことが、高校で学べるのは良い。専門学科など専門性を活かしたコースなどが県立高校で受けられることは良いことである。
- ・これから生徒が減っていく中で、学校数が減ってしまうのは仕方ないと思う。防災以外にも、さまざまな魅力を打ち出した学校づくりを頑張っていたきたい。

- ・防災については、現在導入されている2校のみならず、もっと多くの学校に導入していただきたい。大学や他の学校とも連携し、たくさんの人たちに理解を深めてもらいたい。
- ・一時的なものに終わらないように、継続的な取組が大切であると思う。学んだことが日常に帰ってくるのが大事だと思う。
- ・医療や保育など、特色ある学びが、高校で学べるのは良い。コース選択時に職業のことも考えながら選択できれば、ミスマッチも防ぎやすくなるのではないかな。
- ・東葛飾高校の探究学習で、「教育と探求社」と提携している点は素晴らしいと思う。
- ・地域連携アクティブスクールや三部制定時制、福祉コースの取組は時代のニーズにもかかっている。
- ・千葉高校にコースを設置することは、OBの中には特定の価値観を植え付けるのはどうかという意見がでてくるだろう。
- ・福祉や介護など継続して勤務することが大変な状況にある。また、国として補助しきれていない。専門性を育てても、待遇面で離職してしまう。職業として続けていくための環境づくりが大切である。学校だけでは限界があるので、地域を巻き込んでいくべきである。

ク 今、社会が求めている人材についての意見

- ・失われた30年を取り戻すことが教育の役割であり、地域の期待、学校の役割等も承知している。新学習指導要領もこの流れの中で作られていると感じている。実学重視だけだと生徒の学習意欲が伸びてこないのではないかな。
- ・社会が求めるリーダー像は世界だけではなく、地域に根付いたリーダーもいる。束ねるだけではなく、それぞれの場所で活躍できるリーダーが必要
- ・主体的に他者と協働して問題を解決する人材、伝える力や調整する力が必要
- ・異なる文化的社会的背景を持つ集団の中で、英語や情報技術に裏付けられたコミュニケーション力に基づき、リーダーシップを発揮できる人材
- ・基礎的な情報活用技術を修得し、変化する時代の中で（それぞれの立場で）主体的に行動できる人材
- ・教員も保育もブラック報道の影響もあってか、敬遠されている状況にあるが、これからの人にはそれぞれの分野において、担い手になるという強い気概を持って仕事に臨んでほしいと思う。
- ・コロナによって思考の仕方が変わってきている。子どもたちの思考の広がりがある、そうした子どもたちの多様性に、先生方も人間力を磨いて対応していかななくてはならない。コロナの前に戻すというよりは、工夫して新たなものを作り出すという考え方に変わってきている。スクラップアンドビルドのようなもので、子どもたちも意見を出しやすくなっている。
- ・最近の中学生を見ていると一度折れると諦める、踏み出すことを恐れる子が多いように感じる。すぐ折れない、しなやかさが求められるのではないかな。
- ・利己的にならず、リアルな社会、地域との繋がりを持ち、その一員としての自覚を持てる人が求められる。自分の能力を自分のためだけでなく、他人、外部、コミュニティのために活かしたいという意識が減退していきているが、その意識こそ、これから求められるものである。そのためには、自分が役に立っている、評価されていると感じる何か、経験が必要だ。
- ・高校でもインターンシップを大いにやってもらい、自分に向いている仕事か実際に働いて確かめたほうが良い。
- ・一面的な情報だけにとらわれることなく、広い視野で様々なソース（実体験含む）から物事を判断できる人材。進路相談等受ける中で、情報弱者を狙ったような広告に半ば騙されるような形で、進路選択を誤ってしまう方も増えているように感じる。特にこのコロナ禍

において、ネットでの情報収集に頼らざるを得ないところを利用してしまっている部分がある。また、データサイエンスの分野は今後重要であると考える。保育福祉でもデータ管理が当たり前になってきている。本校は介護ロボットなどの会社である「サイバーダイーン」や「イノフェス」と連携もしているが、広がりを見せている分野であるので必要だと考える。

- 保育はただ楽しい、かわいだけでなく、保護者や上司との関わりとか、命を預かる仕事であることから、自分が持っているものを如何なく発揮できて、それを喜びとできるような人間になってもらいたい。
- 保育士に限って言えば、説明責任を果たせる人材であると思う。考えてから言葉を話す。もしもの時など、状況がきちんと説明できる、的確な言葉選びができることは大切である。
- 学習指導要領も変わり、背景を読み取っていくと、主体的に社会へ参画してしていく意識を持った人材が必要である。新聞にも出ていたが、日本の 17~19 歳が自分の将来について全く希望を持っていないというデータが出ていた。社会とコミュニケーションを取りながら、社会に機能していく人材、新しい価値や文化を創造していく人材、これからの日本を引っ張っていけるような人材が必要ではないかと考える。
- 自分から目標を定めて、積極的に取り組んでいけるような人材が欲しい。状況判断をして修正できるような広い視野と柔軟な姿勢を持った人材が必要だと思う。
- あまりにも個になっている時代である。人と人とのつながりの中で、お互いに敬意を払う関係でなければ、仕事は上手くいかない。オートメーション化で肉体労働者より知識労働者が増えているが、コミュニケーションを取り、双方がともに敬意を払わなければいけない。人間力が大切である。
- コミュニケーション能力である。連携やチームワークなどが求められる。対人スキルも必要である。保育所では、赤ちゃんを抱っこするだけでなく、保護者対応などが必要になる。核家族化が進行し、生活の中で学ぶ機会が失われてきている。生活の中から認知症患者との接し方も理解していけるとよい。
- 生涯にわたってたくましく生きていくことができる人材が求められていると思う。
- スマホ世代の若者は、会話によるコミュニケーションが少ないと感じる。入所者にとっては、若い世代の職員と話ができることを楽しみにしている。
- 特に防災については、主体的に行っていないといけないと思っている。そして一人で行えることは限られているので、他者と連携・協力できる人材であって欲しい。
- 福祉の人材が不足し、世間的には評価も低い。せつかく就職しても続かない。1日で辞めた社員もいる。現場に入ってからギャップが大きい。こんなつもりじゃなかったと思われるような指導や教育が必要である。また、本人と親の意見が違う。夢を持って入ってきてても厳しい世界ではある。入っても給料が低い。コミュニケーションも取るし、事務作業もある。オールマイティな人材が必要である。
- 被災直後は行政からの援助が期待できない状況である。その中で、やれることを率先して行ってくれる人材は大変ありがたい。学びを生かして、そういう人になってほしい。
- 災害が発生した時には、「自助」「共助」が何より重要になってくる。自分の身を自分で守ることができるようになることはもちろん、災害時のボランティアとして活躍できる人になってほしい。
- 環境が変わっていく世の中で、この環境だからこそできること、やってみようと思いがあって行動に移せることが大事だと思う。具体的なスキルであると課題解決力であったり、コミュニケーション能力であったりするが、やはり総合的な力が求められていると思う。総合力とは何かと考えると、自分で考えて進んでいくということに尽きるのではないかと思う。会社の理念に「自分らしく生きる」というのがあり、どんな環境であっても、自分を大事にしながらかみ進んでいくのを止めないということが大事だと思う。

- ・コミュニケーションが取れる。多様性に対応できる人材が必要である。また、自ら問題を見つけ、自ら学び、考える、自分の意見が言えることも大切である。医療現場も日本人だけでは回らない。医療人材は減少傾向にあり、外国人も多数いるので、コミュニケーションや気遣いができないと医療現場でも対応できない。
- ・語学力とプレゼンスキル、統計の基礎知識は必須
- ・企業に属するにせよ公務員になるにせよ個人事業主になるにせよ、自身の仕事が目の前の人に与える影響と、世界に与える影響の両方を説明できる人材が求められる。
- ・新規事業の立ち上げには、仮説検証などの科学的思考力が求められるようになっていく。

ケ 県立高校に期待すること、県教育委員会が進めている「県立学校の魅力づくり」についての意見

- ・公立高校の強みを意識してほしい。1つは、専門学科がある。2つは、地域と連携しやすい。3つは、県内7000人、義務も合わせると4万人の教員人材がいるということである。それぞれの学校で特色ある学校づくり、多種多様な人材を活かしてほしい。
- ・佐倉南高校三部制立ち上げに携わっていたが、再編は様々な事情があるため大変である。東葛飾では、「自主自律」という言葉を大切にしている。より高い学びを求めて、子どもたちがのびのびと学習や人間力、自律の力をつけることが必要であり、環境づくりが大切である。
- ・公立高校が努力している情報につかめていない。私立は全面的にコマーシャルしているので、それを基準に公立高校を見ている。普通科の個性化として、偏差値でない、高校を選ぶ指針を全面に出してほしいという意見もある。
- ・見える化という部分では、私立高校は企業なのでよく見えているが、こっちから情報を取りに行くということが大事で、中学校側の問題であると思っている。キャリアパスポートをうまく活用できていない。
- ・主役である高校生が高校改革で議論する場面があると良い。
- ・保護者に授業を見てもらうのが良い。中3だけでなく中2まで広げると全然違う。GIGAスクール構想において、当初、公立は私立との差があったが、今や公立もできつつある。市によっても取組に差がある。
- ・施設設備が老朽化している学校がある。外から見る様子も重要な要素なので、思い切った改築（大規模改修）を行ってはいかがか。
- ・校内無線ネットワークが整備され、保護者負担で端末を購入することを聞いている。この後、それらが十分に活用されることが魅力につながると考えられるので、教職員の活用力向上のための研修・サポート体制が重要だと思う。
- ・過疎化や少子化の中で第5～9学区の県立高校が持続的に発展できるように、隠岐の島留学や他県水産高校の寮制度のような、全国から志願者を集める仕組み（隣接学区規定の特例）や過疎地域へのスクールバスの導入を考えてはいかがか。
- ・訴求力を高めるために各学校の特色を際立たせる必要は理解できるが、バランスよく地道な活動を継続している学校も、中学校や保護者に支持されている。特徴的な取組をする学校も必要だが、オーソドックスな教育も県立高校の重要な要素だと思うので、全校に特色とは言えないような取組も魅力としてとらえていただけるとよい。
- ・市教委と中学校で組織する進学協議会を通じて、各高校の魅力について、より一層、把握に努めていく必要があると考えている。
- ・高校入試をゴールと捉えている生徒もいるので、新たなスタートとして捉え、未来を担う人材育成を目指してほしい。
- ・出口や学びのその先に見えることをアピールしていくべきである。普通科のなかで、こういう学びをしているということがわかると良い。

- ・先輩の話を参考にして進路選択をする生徒もいる。普段の学校生活を送っている高校生から発信することも魅力づくりに繋がる。
- ・コロナ禍の最初の初期対応は私立の方が整っていると述べている保護者が多かった。県立から私立に流れていった。昨年度は少し緩和された感があった。GIGA スクール構想はお金やシステム上の制限などの面で難しいと感じる。公立は最先端に乗れない、一歩も二歩も後ろを歩いているイメージを持っている。
- ・現在は各校自由な取り組みで魅力づくりの発信をされているが、年度によって同一のテーマでの取り組みがあっても良いかと思う。また、保育や介護の専門基礎コース以外でも、例えば、介護の初任者研修の資格を取得できるような仕組みがあると、職業教育として幅が広がるのではないかと思う。
- ・スポーツで特化したり、コースに分けたりすることは良いと思う。また、土地の特徴を生かす、文化を継承する学びがあっても良いのではないかと思う。
- ・地域の学校では、地域の産業と結びつくなり、地域留学ができたりするような、人口を流出させないような仕組みがあれば良い。
- ・卒業後に進学をしなくても就職して地域に残る進路選択がもっと多くても良いと思う。通信制を利用しながら農業をしても良いわけで、色々な進路があっている。卒業したら終わりということではなく、20歳を超えてもできるような学びがあると良いと思う。
- ・子どもたちにとって、入り口も大事だが出口指導に力を入れていけるような環境づくりをしてほしい。
- ・福祉関係では人との関係の柔軟性が重要かと思う。仕事以外の人間関係が重要になってきている。福祉分野は専門性が求められるが、それだけではない。知識だけでは良い支援ができない。
- ・様々なコースがあることはよい。高校3年間で出口指導に力を入れてほしい。高校生活の中で将来への意識づけを行い、充実した高校生活を過ごしてほしい。
- ・仕事としてシフトワーカーよりデスクワーカーを選ぶ傾向があると分析している。就職後に、「思っていたものと違った」、「思っていたよりもきつかった」と言う人もいる。仕事の基本は裏方である。そういったことを学校で教えてミスマッチを減らしてほしい。
- ・偏差値ではないところで学校選びができるとうよい。いくつかの高校で「マナー講座」などで当ホテルを利用してもらっているが、食べる作法としてのマナーだけではなく、料理を作った人、提供してくれた人、様々な人に敬意を払うマナーも大切であると話している。高校生には道徳の授業が必要ではないかと思う。
- ・学力の高い高校でも、福祉の学びを広めてほしい。数多くの高校で福祉マインドを育てる取組をしてほしい。
- ・高校における防災の学びなど、子どもたちの学ぶ意欲や目的意識を高めることにつながり、非常に良いと思う。小学校においても、地域連携・協働学習は大きなテーマである。
- ・偏差値で高校を選ぶのではなく、ここに行けばこのような学びが出来るといった高校選択の多様化があればいい。
- ・外部の意見を聴いて学校づくりに生かしていることが素晴らしい。今後も幅広い意見を参考にして学校づくりを進めてほしい。魅力づくりは独自性であると思うので、市原高校に様々なカリキュラムがあることも独自性である。そのことを生徒だけでなく、保護者や一般の方々にもアピールしていくことが大切である。
- ・地域との連携がキーワードになるだろう。また、点数でしか学校を選べない状況にあるが、この学校にはこういう魅力がある、こういう価値が際だっているという見方で子どもたちが学校を選べると良い。
- ・農業だけを学ぶのではなく、経営も一緒に学んで、企業農場をやっていくのはどうか。園芸科もただ物を作るだけでなく、経営的な視点を入れて変わっていかなくてはならない。

- ・防災の学びの取り組んでいる内容が地域に知られていない、ということにも繋がるが、情報発信の方法を検討していただくと良いと思う。学校や県のホームページなどで紹介していると思うが、それだと興味のある人しか見ないのでは。広報は紙媒体だと目につきやすい。広報をするだけでなく、体験的なものや交流会などをリモートでも良いので実施したり、ミニ集会等でアウトプットする機会を与えてあげたりすると良いと思う。
- ・中高一貫校は、中学1年から高校3年までいる。幅広い年齢層がいるので、人間形成にプラスになる。同年代よりも6年上の人たちの様子を見ることができるので、将来像が見えやすいのではないかと。マイナス面とは言わないが、同じメンバーで進級していくので、多くの人と関わった方がよいのではないかと。
- ・一般常識やモラル、社会性がない大学生も増えてきている。こういった能力はどこで身につけられるのか。どの生徒も社会の基礎力や身につけていく方法を考えていくべきである。
- ・学校間のヨコとの連携はもとより、地元企業との取組も大切だと思う。
- ・特色あるコース、科の設置は、中学生が高校選択する上で、大変良い。高校を選択するためには、中学校でのキャリア教育がもっと必要である。もっと打ち出していけると良いのではないかと。自分自身もこのように多くのコースや科が県内高校にあることを、資料をいただくまでは知らなかった。ホームページも見やすい学校とそうでない学校がある。広報の仕方や外への発信ということは考えていった方が良い。
- ・学校の魅力づくりは学校のPR材料になるので、中学校の教員向けにも効果があるのではないかと。
- ・表彰以外に学校のPRのために、予算配分で工夫があるのかがわかりにくい。
- ・リーダー人材を育ててほしい。そこは私立ではなく、様々な環境の生徒が入学してくる公立である。個人的にも公立高校出身者として、応援している。

7 基礎データ

(1) 志願状況

ア 保育基礎コースの設置

○市川南高校（普通科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H30	320	192	320	1.67	128	188	1.47	
R1	320	192	402	2.09	128	165	1.29	コース設置
R2	320	192	315	1.64	129	160	1.24	
R3	320	320	313	0.98				選抜一本化
R4	320	320	305	0.95				

イ 福祉コースの設置

○我孫子東高校（普通科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H30	280	168	238	1.41	112	115	1.03	
R1	280	168	187	1.11	112	66	0.59	コース設置
R2	280	168	218	1.30	112	103	0.92	
R3	240	240	240	1.00				選抜一本化
R4	240	240	209	0.87				

ウ 総合学科の設置

○幕張総合高校（総合学科）

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H30	720	432	990	2.28	288	469	1.63	
R1	680	408	1,005	2.46	273	453	1.66	学科設置
R2	680	408	1,093	2.68	273	522	1.91	
R3	680	680	1,007	1.48				選抜一本化
R4	680	680	1,044	1.54				

エ 中高一貫教育校の設置

○東葛飾中学校

年度	募集定員	志願者数	倍率	備考
H28	80	1157	14.5	中高一貫教育校設置
H29	80	956	12.0	
H30	80	820	10.3	
R1	80	927	11.6	1期生高校入学
R2	80	865	10.8	
R3	80	826	10.3	
R4	80	865	10.8	

○千葉中学校

年度	募集定員	志願者数	倍率	備考
H20	80	2165	27.1	中高一貫教育校設置
H21	80	1348	16.9	
H22	80	1172	14.7	
H23	80	1187	14.5	1期生高校入学
R2	80	722	9.0	
R3	80	605	7.6	
R4	80	600	7.5	

オ 防災の学びの導入

○市原八幡高校

年度	募集定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者確定数	倍率	
H30	240	144	292	2.03	97	138	1.42	
R1	240	144	245	1.70	96	107	1.11	学び導入
R2	240	144	283	1.97	96	132	1.38	
R3	200	200	206	1.03				選抜一本化
R4	240	240	247	1.03				

カ 統合

○市原高校（普通科）

年度	募集 定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定 人員	志願 者数	倍率	募集 人員	志願者 確定数	倍率	
H30	120	72	69	0.96	54	25	0.46	
R1	120	72	76	1.06	48	27	0.56	統合
R2	120	72	76	1.06	49	17	0.35	
R3	120	120	74	0.62				選抜一本化
R4	120	120	64	0.53				

○市原高校（園芸科）

年度	募集 定員	前期選抜			後期選抜			備考
		予定 人員	志願 者数	倍率	募集 人員	志願者 確定数	倍率	
H30	80	56	34	0.61	51	10	0.20	鶴舞桜が丘 食とみどり科
R1	40	28	31	1.11	15	8	0.53	統合
R2	40	28	21	0.75	20	6	0.30	
R3	40	40	27	0.68				選抜一本化
R4	40	40	14	0.35				

(2) 令和3年度(令和4年3月卒業生)の進路状況

ア 保育基礎コースの設置

○市川南高校の卒業生(コース選択者19名)

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H29年度 割合※
大学	3	15.8%	帝京平成大、植草学園大、和洋女子大	36.9%
短大	8	42.1%	昭和学院短大、千葉明德短大、千葉経済大学短大、 貞静短大 等	7.3%
大学・短大通信	0	0.0%		0.3%
専門学校等	6	31.6%	東京教育、東京福祉保育、上野法律、日本健康 医療福祉 等	38.2%
就職	2	10.5%	警視庁、歯科助手	11.4%
その他・未定	0	0.0%		6.0%
合計	19	100.0%		100.0%

※平成29年度の3年生317名に対する割合

イ 福祉コースの設置

○我孫子東高校の卒業生(コース選択者20名)

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H29年度 割合※
大学	3	15.0%	淑徳大、亀田医療大、医療創生大	13.6%
短大	2	10.0%	昭和学院短大	0.5%
専門学校等	7	35.0%	江戸川学園おおたかの森、成田国際医療福祉、 柏リハビリテーション、パリ総合美容	30.5%
就職	7	35.0%	みどり荘、八幡苑、アコモード、ヴィヴァン ホーム柏、マザースガーデン、生活クラブ、 ANAインターコンチネンタルホテル	50.0%
その他・未定	1	5.0%	(未定)	5.5%
合計	20	100.0%		100.0%

※平成29年度の3年生220名に対する割合

ウ 総合学科の設置

○幕張総合高校の卒業生

【人文系列】（系列選択者 293 名）

種 別	人数	割合	主な進路先 大学・短大：名称（学部・学科名）	(参考) H29 年度 割合※
大 学	197	67.2%	千葉大(教育)、都立大(経済経営)、青山学院大(文)、学習院大(経済)、慶應大(文・経済・商)、上智大(外)、中央大(法)、法政大(文・経営)、明治大(政治経済・法)、立教大(文)、早稲田大(商・教育) 等	65.2%
短 大	1	0.3%	上野学園短大(音楽) 等	1.0%
専門学校等	15	5.1%	二葉看護、日本工学院、東放学園音響、東京ブライダル、織田製菓、資生堂美容技術、東洋理容美術 等	5.5%
就 職	0	0.0%		0.4%
その他・未定	80	27.3%	(進学準備等)	28.0%
合 計	293	100.0%		100.0%

※平成 29 年度の普通科 3 年生 729 名に対する割合

【文理系列】（系列選択者 187 名）

種 別	人数	割合	主な進路先 大学・短大：名称（学部・学科名）	(参考) H29 年度 割合※
大 学	135	72.2%	千葉大(法政経・教育)、筑波大(医・体育)、東京学芸大(教育)、青山学院大(文・教育人間科学)、学習院大(法・経済)、法政大(法・キャリアデザイン)、明治大(政治経済・経営)、立教大(経済・コミュニティ福祉・現代心理)、早稲田大(教育) 等	65.2%
短 大	1	0.5%	女子栄養短大(食物栄養)	1.0%
専門学校等	9	4.8%	日本工学院、東京医療学院、日本鍼灸理療、早稲田美容、旭中央病院附属看護、野田看護 等	5.5%
就 職	1	0.5%	千葉ロッテマリーンズ(プロ野球選手)	0.4%
その他・未定	41	21.9%	防衛医科大学校、国立看護大学校 (進学準備等)	28.0%
合 計	187	100.0%		100.0%

※平成 29 年度の普通科 3 年生 729 名に対する割合

【理工系列】（系列選択者 154 名）

種 別	人数	割合	主な進路先 大学：名称（学部・学科名）	(参考) H29 年度 割合※
大 学	88	57.1%	千葉大(工)、弘前大(理工)、信州大(工・教育)、前橋工科大(工)、学習院大(理)、芝浦工業大(工・建築)、上智大(理)、中央大(理工)、東京理科大(工・理工・先進工)、東邦大(理・薬)、法政大(デザイン工・理工・情報科学)、星薬科大(薬)、明治大(総合数理)、立教大(理)、早稲田大(教育・人間科学) 等	65.2%
短 大	0	0.0%		1.0%
専門学校等	4	2.6%	日本電子、日本航空北海道、船橋市立看護 等	5.5%
就 職	0	0.0%		0.4%
その他・未定	62	40.3%	(進学準備等)	28.0%
合 計	154	100.0%		100.0%

※平成 29 年度の普通科 3 年生 729 名に対する割合

【芸術系列】（系列選択者 29 名）

種 別	人数	割合	主な進路先 大学：名称（学部・学科名）	(参考) H29 年度 割合※
大 学	18	62.1%	日本大(芸術)、国立音楽大(音楽)、東京音楽大(音楽)、武蔵野音楽大(音楽)、多摩美術大(美術)、東京造形大(造形)、武蔵野美術大(造形) 等	65.2%
短 大	0	0.0%		1.0%
専門学校等	2	6.9%	文化服装学院、ヒコみずのジュエリーカレッジ	5.5%
就 職	0	0.0%		0.4%
その他・未定	9	31.0%	(進学準備等)	28.0%
合 計	29	100.0%		100.0%

※平成 29 年度の普通科 3 年生 729 名に対する割合

エ 中高一貫教育校の設置

○東葛飾中学校・高校の卒業生（内進生 74 名）

種 別	人数	割合	主な進路先	(参考) H29 年度 割合※
大 学	61	82.2%	東京大、一橋大、筑波大、東京工業大、千葉大、お茶の水女子大、早稲田大、慶応大、上智大 等 (医歯薬系 2 名) 千葉大(薬)、東邦大(薬)	66.7%
短 大	0	0.0%		0.0%
専門学校等	0	0.0%		0.3%
就 職	1	1.4%	公務員	0.0%
その他・未定	12	16.2%	(進学準備)	33.0%
合 計	74	100.0%		100.0%

※平成 29 年度の普通科 3 年生 324 名に対する割合

○東葛飾中学校・高校の卒業生（外進生 237 名）

種 別	人数	割合	主な進路先	(参考) H29 年度 割合※
大 学	191	80.6%	東京大、京都大、北海道大、東北大、東京工業大、筑波大、東京外国語大、千葉大、早稲田大、慶應大 等 (医歯薬系 5 名) 山梨大(医)、東邦大(薬)、東京理科大(薬)、日本大(薬)	66.7%
短 大	0	0.0%		0.0%
専門学校等	1	0.4%	工業系専門学校	0.3%
就 職	1	0.4%	準大学	0.0%
その他・未定	44	18.6%	海外学校、(進学準備)	49.5%
合 計	237	100.0%		100.0%

※平成 29 年度の普通科 3 年生 324 名に対する割合

○千葉中学校・高校の卒業生（内進生 78 名）

種 別	人数	割合※	主な進路先	(参考) H29 年度 割合※
大 学	63	80.8%	東京大、一橋大、東京外国語大、お茶の水女子大、 東北大、筑波大、東京工業大、千葉大、早稲田大、 慶應大 等	67.0%
短 大	0	0.0%		0.0%
専門学校等	0	0.0%		0.0%
就 職	0	0.0%		0.0%
その他・未定	15	19.2%	(進学準備)	33.0%
合 計	78	100.0%		100.0%

※平成 29 年度の普通科 3 年生 321 名に対する割合

○千葉中学校・高校の卒業生（外進生 235 名）

種 別	人数	割合※	主な進路先	(参考) H29 年度 割合※
大 学	177	75.3%	東京大、京都大、一橋大、東京外国語大、大阪大、 お茶の水女子大、東北大、筑波大、東京工業大、 北海道大、東京医科歯科大、千葉大、早稲田大、 慶應大 等	67.0%
短 大	0	0.0%		0.0%
専門学校等	0	0.0%		0.0%
就 職	0	0.0%		0.0%
その他・未定	58	24.7%	(進学準備)	33.0%
合 計	235	100.0%		100.0%

※平成 29 年度の普通科 3 年生 321 名に対する割合

オ 防災の学びの導入

○市原八幡高校の卒業生

種 別	人数	割合	主な進路先	(参考) H29年度 割合※
大 学	99	41.8%	東京電機大、神田外語大、日本大、武蔵野大、立正大、目白大、大妻女子大、桜美林大、二松學舎大、敬愛大、淑徳大、共立女子大、千葉工業大、千葉商科大、実践女子大、昭和女子大、帝京平成大、東京工芸大、和洋女子大、千葉経済大、京都芸術大 等	34.2%
短 大	20	8.4%	千葉経済短大、千葉明德短大、戸板女子短大、日本歯科大学東京短大 等	9.7%
大学・短大通信	0	0.0%		0.3%
専門学校等	87	36.7%	千葉市青葉看護、北原学院千葉歯科衛生、千葉医療センター附属千葉看護、千葉医療福祉、船橋情報ビジネス、大原、東京IT会計公務員 等	38.4%
就 職	18	7.6%	国家公務員一般職(国土交通省)、千葉県職員(学校事務)、市原市職員、トヨタカローラ千葉、市原市農業協同組合、杉孝、三井造船特機エンジニアリング、かどや製油、電洋社、山九、昭和電工マテリアルズ 等	10.1%
その他・未定	13	5.5%	公共職業能力開発施設、(進学準備等)	7.2%
合 計	237	100.0%		100.0%

※平成29年度の普通科3年生237名に対する割合

カ 統合

○市原高校の卒業生（普通科）

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H29年度 割合※
大 学	8	9.6%	和洋女子大、東京情報大、千葉商科大、千葉工業大、東都大、淑徳大 等	10.4%
短 大	2	2.4%	清和女子短大、千葉明德短大	2.8%
専門学校等	31	37.3%	ハッピー製菓調理、千葉女子、大原簿記公務員、東和IT、中央介護福祉、鶴舞看護 等	20.8%
就 職	34	41.0%	不二サッシ千葉工場、大日本除虫菊、マルサン重機、コスモ石油、京葉臨海鉄道、ALSOK千葉、高滝神明の里、自衛隊 等	61.3%
その他・未定	8	9.6%	日本ナレーション演技研究所、(未定)	4.7%
合 計	83	100.0%		100.0%

※平成 29 年度の市原高校普通科 3 年生 106 名に対する割合

○市原高校の卒業生（園芸科）

種別	人数	割合	主な進路先	(参考) H29年度 割合※
大 学	1	3.6%	東京造形大	3.4%
短 大	0	0.0%		0.0%
専門学校等	1	3.6%	北海道農業大学校	25.4%
就 職	22	78.6%	南総カントリークラブ、津田屋、せんどう、京葉ブランキング、しげのや、理研電線 等	69.5%
その他・未定	4	14.3%	(未定)	1.7%
合 計	28	100.0%		100.0%

※平成 29 年度の鶴舞桜が丘高校食とみどり科 3 年生 59 名に対する割合

○鶴舞桜が丘高校の卒業生

種別	(参考) H29 年度割合	
	食とみどり科 59 名	総合ビジネス科 31 名
大 学	3.4%	6.5%
短 大	0.0%	0.0%
専門学校等	25.4%	12.9%
就 職	69.5%	74.2%
その他・未定	1.7%	6.5%
合 計	100.0%	100.0%

(参考) 統合までの経過
平成 30 年度
 鶴舞桜が丘高校「食とみどり科」を「園芸科」に名称変更
令和元年度
 市原高校と鶴舞桜が丘高校を統合。市原高校に、普通科、園芸科及び商業コースを設置するとともに、鶴舞桜が丘高校の「福祉コース」及び「緑地管理コース」を引き続き設置

IV その他

再編校の追跡調査について

1 調査の目的

再編により設置したコース等において、大学等卒業後の就業状況について、追跡調査を実施し、再編の効果を検証するとともに、検証結果を踏まえ、生徒にとってより良い学びの場となるよう各学校の取組の支援やコース等の見直しに活用するため。

2 調査対象

教員基礎コース 第1期生（千葉女子高校・安房高校）
平成26年度設置 平成28年度卒業

3 調査結果

調査数71名 回答数35名（回答率49.3%） ※令和3年6月実施

(1) 進学先で教職課程を履修した生徒数 24名 / 35名 (68.6%)

(2) 進学先で教員免許を取得した生徒数 23名 / 24名 (95.8%)

(3) 千葉県・千葉市教員採用試験を受験した生徒数 13名 / 23名 (56.5%)

(4) 千葉県・千葉市教員採用試験で合格した生徒数 6名 / 13名 (46.2%)

※未回答も含めると8名が県内公立学校に正規採用

(5) 就業状況（回答数35名の内訳）

種別	人数	%	主な進路先
小中高教員	13	37.1	(正規採用) 県内公立学校6、県外公立学校2、 県外私立学校1 (臨任講師) 県内公立学校4
その他就職	13	37.1	幼稚園2、保育園2、児童相談所1、養護施設1、 公務員2、一般企業就職5
進学	1	2.9	
在学中	1	2.9	
その他	1	2.9	
無回答	6	17.1	
計	35	100.0	

【参考】卒業生の主な意見

- ・教員基礎コースで教職体験をしたことで、大学選びを一年生の頃から真剣に考えることができたし、将来こうなりたいというイメージも、持つことができたと思う。働き始めてから、日々の仕事の忙しさに追われて目の前の子どもに対してきちんと指導できているのか不安になるときもあります。そんなときに教員基礎コースで勉強した数々の資料と、当時の自分の考えを振り返って教育の楽しさを感じています。そうやって振り返る場所があるということに誇りと安心感をもっています。
- ・自分の進路を見つめる良いきっかけとなった。子どもに関わる仕事がしたいという思いで教師になりたいと思い、コースに所属した。その中で、子どもに携わる仕事は教師以外にも様々にあることに気づいた。コースでの気づきを通して、大学に進学し、自分自身が挑戦したい分野を見つけることができたのだと感じている。
- ・様々な実習を通して、教員という職業の魅力的なところ、大変なところを知る機会を得ることができました。そのおかげで、進路を考える上でのミスマッチを防げたと思います。コミュニケーションの取り方、他者理解といった社会人としての基礎にも通ずる学びは、今の生活に生きていると思います。
- ・大学の教育実習のイメージがつくので、準備しやすかったと感じています。どんなところかのイメージがあるので、慣れることにそれほど時間を費やすことなく授業づくりや子どもとの関わりに集中できました。また、良い先生ってなんだろう？というディスカッションが私は心に残り今でも良かったと思っています。大学でも教職の勉強はしますが、どんな先生が良いかということディスカッションする機会はなかなかありませんでした。高校生という生徒目線から、良い先生はなんだろう？という根本的なトピックをディスカッションしあえたことは今も生きていると感じています。教員採用試験の面接練習や、教員になった今でもその高校生のときに考えた原点に立ち返ることがあります。教員の道を選ばなくても、ひとつのテーマについて実践したりディスカッションしたりするという過程を経験したことは糧になると思いました。
- ・教員基礎コースの講座で学んだ知識や考え方は今の仕事の基盤になっているなど感じます。具体的に講座名や先生の名前は覚えていませんが、講座の中で先生が仰っていた「先生として完璧でいようとするのではなく、自分もわからないことがあったとしても学び続けてその姿勢を生徒に見せることが何より大切」という言葉が授業や生徒と関わる上で基盤になっていると思います。



<教員基礎コース 教育体験 I 「せんせいっていいもんだ」講座 (令和4年9月27日実施) 千葉女子高校に於いて>